

1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

【基本施策】2 ウォーカブルな空間整備 【重点施策】

これまでのまちづくりは自動車中心に考えられてきた傾向があり、高齢の方や誰もが安全に快適に移動し、気軽に休める場所が不足していました。今後のまちづくりにおいては、「ひと中心」の視点に立ち返り、市民が心身ともに健康で豊かに暮らせる「歩きたくなるまち」を目指し、ウォーカブルな空間づくりを進めます。市では、黒目川沿いの散策路やまちなかの歩道を居心地の良い空間として充実させていきます。誰もが安心して歩けるよう安全を確保し、ベンチや広場を設けることで、立ち止まって休憩したり、地域の人と交流したりできる居心地の良い場所をつくります。これにより、市民の健康づくりとまちのにぎわいを生み出します。

① 河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理

黒目川・新河岸川沿いを中心に、散策路や親水広場の整備・管理を継続し、市民が水辺に親しみ、憩い、健康増進を図れるウォーカブルな空間をつくります。



河川沿いの散策路

② 歩道のネットワーク化と管理

歩道のネットワーク化と適切な管理を継続し、市民が安全かつ快適に移動できる歩行空間を確保します。



ウォーカブル空間整備のイメージ
(駅西口富士見通線)

③ 休息や健康づくりの場の整備

まちなかベンチ、ポケットパーク、健康遊具の設置などを通じて、市民が気軽に休息したり、健康づくりに取り組んだりできる場を整備し、都市の快適性を高め、市民の健康増進を図ります。



BB スクエア（市役所通りのポケットパーク）



快適に散歩やジョギングができる
シンボルロード

33 「居心地が良く、歩きたくなる」まちのこと。車中心ではなく、ベンチで休んだり、安心して散歩や買い物ができたりする、人を中心とした空間づくりを指します。

(5) 公共施設・民有地のみどりの育成

【基本施策】1 公共施設のみどりの整備・管理

みどりは、豪雨や暑さへの対策、生き物のすみかとなる「グリーンインフラ（自然の持つ機能を活かした社会基盤）」であり、安全で快適なまちづくりの土台となるものです。公共施設の緑化は、こうしたまちづくりをリードする重要な取組です。

公共施設の緑化と管理では、みどりの持つ多くの役割を長く発揮させることと、維持管理にかかる費用を最小限に抑えることが重要です。また、公共施設のみどりを、地域住民などが協力して守り育てる活動の場とし、管理の担い手を確保するとともに、みどりのあるコミュニティ活動を活発にします。これにより、財政負担を減らしつつ、みどりが持つ多様な機能を長期にわたって発揮させます。

① 公共施設の緑化と管理

市役所、保育園、公民館、学校など、様々な公共施設の緑化を進め、適切な管理を行うことで、美しい景観づくりや、夏の暑さ対策などを進めます。

② 維持管理性と美観を保つ公共施設植栽管理指針の策定

公園の植栽管理指針を策定する際には、公園以外の公共施設での管理についてもあわせて検討し、公共施設全体で質の高い緑地空間をつくって、みどりの健康を長く保ちます。



花の池テラス（市役所）



校舎の緑化



みどりのベンチ（北朝霞駅東口広場）

1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

【基本施策】2 民有地のみどりの整備促進

全て快適なまちづくりを進めるためには、市の広い範囲を占める「民有地（個人の家や会社の土地など）」の緑化が欠かせません。そのため、市民や事業者のみなさんが、進んで質の高いみどりを増やせるような仕組みが必要です。

本市では、戸建て住宅などへの緑化支援を行うほか、一定規模以上の開発事業においては、まちづくりのルールを活用して、グリーンインフラの整備を促します。これらの制度を通じて、自然な水のめぐりを取り戻したり、ヒートアイランド現象（夏の暑さ）を和らげたり、地域の生き物を守ったりするなど、みどりが持つ多くの力が発揮されるよう検討を進めます。

① 緑化支援制度の運用

生け垣をつくる際の補助金などの制度を適切に運用し、民有地の緑化を後押しして、まち全体のみどりの量を増やし、住みよい環境をつくります。



図 5-3 生け垣等設置奨励補助金

※生け垣や緑化フェンスの設置等をご検討の方は、工事をする前に、お気軽にお問い合わせください。

② まちづくり制度を活用したみどりの確保

まちづくりのルール（制度）を積極的に活用し、民間による開発とあわせて緑地が確保されるよう促し、計画的に都市の緑化を進めます。

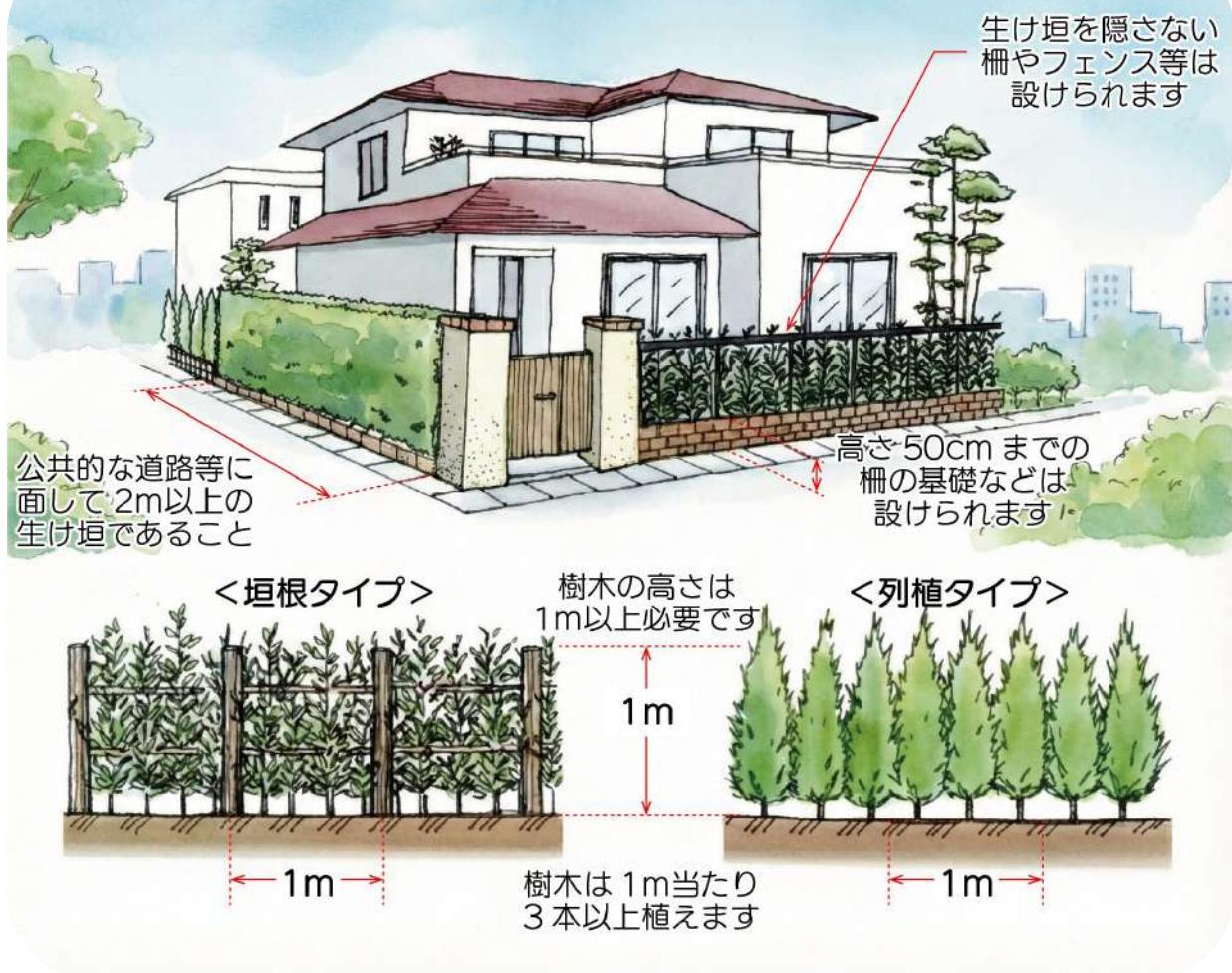


道路のみどりと調和した集合住宅の緑化



ベンチが設置された集合住宅の緑化空間

補助金の対象となる生け垣の設置イメージ



生け垣緑化の取組のご紹介

市の緑化支援制度を利用して、生け垣などの緑化に取り組んだ事例をご紹介します。



植栽時



植栽前



1年後



植栽後

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(1) みどりの担い手の育成と連携

【基本施策】1 みどりの担い手の育成

都市のみどりは、ヒートアイランド現象の緩和や快適な環境づくりに欠かせないグリーンインフラです。これらのみどりを守り育てるために市民ボランティアが大きな役割を果たしていますが、ボランティアの高齢化や減少が大きな課題となっています。このままでは里山や公園のみどりを維持することや、こどもたちを見守るコミュニティの維持が難しくなります。市では、この状況を乗り越えるため、市民一人ひとりがみどりのまちづくり活動に意欲を持って参加したくなるような環境を整えていきます。

① プレーパークの推進

プレーパークの活動を広げて、こどもの居場所づくりを進め、こどもたちが自然の中で自由に遊び、育つ場を充実させます。



プレーパークの活動風景

② みどりの講習会等の実施

専門家を招いた勉強会などを開催し、市民のみなさんの知識や技術を高め、みどりの担い手を育てます。



黒目川の水質調査

④ 教育分野における農業体験の促進

学校教育の中で農業体験を進め、こどもたちが食や農業への理解を深め、自然との触れ合いを通じて豊かな心を育む機会をつくります。

⑤ 食育の推進

食育を進め、市民のみなさんが食に関する正しい知識と選ぶ力を身につけ、健康的な食生活を送れるようにするとともに、都市農業の大切さを伝えます。

【基本施策】2 担い手の連携の拡充 【重点施策】

都市のみどりを維持し、その機能を十分に発揮し続けるためには、行政の力だけでなく、市民、民間事業者、農業者など、様々な人や団体が協力し、それぞれの持つ知識と経験、意欲やアイデアを生かすことが必要です。

このため、市では活動団体と、手入れに困っている緑地とのマッチングを進め、管理を効率化するとともに市民活動を活発にします。また、ボランティア団体同士の交流を促し、情報や技術を共有して活動の質を高めます。さらに、飲食店などを公園内に設置して収益を公園管理に充てる制度(Park-PFI)などを活用し、民間事業者とも協力して公園の魅力を高めるとともに、都市農業を支える組織への支援を強化します。

① 担い手のマッチング

手入れが行き届かない緑地と、保全活動を行う市民団体を結びつけ(マッチング)し、緑地管理を効率的に行うとともに、市民活動を活発にします。

② ボランティア活動団体の交流の促進

生物多様性市民懇談会や緑地保全の勉強会などを開催し、ボランティア団体同士の交流を深め、情報共有と連携を強めて、活動の質を高めるとともに、活動が長く続くようにします。

③ 民間事業者等の参画の促進

公募設置管理制度(Park-PFI)などを導入して、民間事業者の参加を促し、様々な人たちと協力して、みどりのまちづくりを進めます。

施設整備+管理運営 (ハード+ソフト)	管理運営主体 (ソフト重視)	財源確保・市民協働
PFI 【事例】大宮公園サッカー場 改修運営	指定管理者制度 【事例】所沢航空記念公園 (民間企業グループによる管理) 彩の森入間公園	ネーミングライツ 【事例】味の素スタジアム
Park-PFI 【事例】豊島区南池袋公園 (カフェ設置による収益還元モデル)	管理許可制度 【事例】世田谷区羽根木公園 (NPOによるプレーパーク運営) 二子玉川公園(カフェ設置)	広告事業 【事例】公園灯や案内板への民間広告
DBO/DB 【事例】佐世保市中央公園 大規模なスポーツ公園の 新設・再整備工事などで採用		アダプト制度 【事例】地元企業による花壇管理 市民団体による清掃活動
		キッチンカー・マルシェ 【事例】休日のにぎわい創出イベント 社会実験としての暫定利用

図 5-4 民間の活力を生かした公園整備・管理の手法

④ 農の担い手の育成

農業者の組合(出荷組合)や後継者組織の活動を積極的に支援し、これからの農業を担う人を育てます。

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(2) みどりをしなやかに使う仕組みづくり

【基本施策】1 公園等の管理を通じたまちづくり

近年、私たちの暮らしや社会が急速に変化する中で、公園に求められる役割も大きく変わっています。公園は、単に憩う場であるだけでなく、安心安全な都市の基盤（グリーンインフラ）として、また、人々が出会い新たな活動が生まれるまちづくりの拠点となることが期待されています。こうした変化に対応するため、これから公園管理においては、行政が一方的に管理するのではなく、市民の自由な発想や活力を最大限に活かし、しなやかに公園を使いこなすことが求められています。本市では、この考え方に基づき、市民と協力した公園管理体制を強化し、公園などを生かしたまちづくりを進めます。

① 公園サポーター制度の推進

公園管理団体（通称：公園サポーター）制度を進め、市民ボランティアによる公園の清掃、花壇の手入れ、見守り活動などを後押しし、市民と協力した管理体制を強化します。また、こうした活動を通じて、「自分たちの公園」としての愛着を育みます。



市民ボランティアによる花植え

② 市民や活動団体による朝霞の森の管理運営

基地跡地の一部である暫定利用広場「朝霞の森」において、市民と行政が協力して管理運営を続け、市民のニーズに応じた広場の活用と、地域コミュニティの活性化を図ります。



朝霞の森秋まつり

③ みどりのリサイクルの推進

落ち葉の利用や剪定した枝などのリサイクルを進め、緑地管理から出る資源を有効に活用して、循環型社会づくりに貢献するとともに、環境への負担を減らします。



ウッドチップの活用



落葉プール

【基本施策】2 多様なニーズに対応するみどりの確保

近年、生活様式や働き方の変化に伴い、身近な公園や緑地への期待が高まっています。しかし、公園などのみどりの空間は未だ十分に活用されておらず、市民の多様な要望に応えられていない現状があります。都市のみどりは単なる風景ではなく、遊び、食育、健康、交流、そして防災に欠かせない、大切な資源です。このような背景を踏まえ、本市では、公園をはじめ地域にある身近なみどり空間について、多様な市民の想いを受け止め、市民生活に生かすための取組を展開します。この取組にあたっては、行政だけでなく、市民、企業、団体が協力し、暮らしの利便性と豊かさの向上を目指します。

① 市民農園の推進

市民農園の整備を進め、利用できる機会を広げることで、市民が気軽に農業体験を行える場を提供し、食育の推進、健康増進、地域社会の活性化を図ります。

② 市民緑地制度等の活用

市民緑地制度や管理協定、自然共生サイトの認定等、土地の特性に合わせた多様な手法の活用を検討します。あわせて、民有地の保全や市民への開放、生物多様性の確保に向け、みどり法人等と連携した持続可能な管理体制（仕組み）づくりについても検討します。

表 5-2 みどりの守るための多様な選択肢（本市において実績のない制度）

制度名	概 要
自然共生サイト	民間の緑地、里山や公園など、生物多様性が守られている場所を国が認定する制度です。自然保護区と同等に生き物の大切な生息地として評価されます。
市民緑地認定制度	民間の土地所有者が、自分の土地をみんなが利用できる緑地として開放する仕組みです。市がその計画を認定し、緑地の整備や管理をサポートしてくれます。
市民緑地契約制度	土地の所有者が市などに土地を貸し出し、地域住民が利用できる緑地として管理してもらう制度です。協力すると、税金の優遇措置などが受けられます。
緑地保全地域制度	豊かな自然環境を守るために、特に重要な場所を指定して開発などを制限する制度です。木を切ったり建物を建てたりする行為が厳しく規制されみどりを守ります。
管理協定制度	緑地の所有者が自分で手入れをするのが難しい場合に、市や NPO などが代わりに管理を行う協定を結ぶ制度です。緑地が荒れるのを防ぎ良好な状態に保ちます。
みどり法人制度	緑地の保全や緑化活動を行う NPO 法人などを、市が公的に位置づける制度です。民間団体が主体となって、みどりを守り育てる活動に取組やすくなります。

③ 公園ごとの利用ルールづくり

公園ごとの利用ルールを柔軟に設定・見直しすることで、公園の多角的な活用を促進し、地域資源の有効利用と市民の利便性向上を図ります。



ワークショップの風景

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(3) みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり

【基本施策】1 みどりのモニタリングの実施

持続可能なまちづくりを進める上で、都市のみどりは、私たちの生活を守り、豊かにする欠かせない資源です。みどりは、洪水や暑さを和らげ、多くの生き物を育み、日々の暮らしに潤いを与えてくれます。この自然の恵みを未来へ確実につなぐため、本市ではみどりが本来の力を発揮できているか、その「質」を正しく把握する仕組みを導入します。みどりのモニタリングでは、専門的な実態調査に加え、生き物のデータベース整備や市民の声を聞くアンケート調査を行います。これらを通じて、みどりの客観的な状態と市民の評価を明らかにし、その結果をわかりやすく公開しながら、今後のまちづくりに生かしていきます。

① グリーンインフラの実態調査の実施

計画改定時などに、みどりの現況調査やグリーンインフラの評価を定期的に実施します。これにより、都市のみどりの現状と課題を正しく把握し、効果的な計画づくりや対策につなげます。

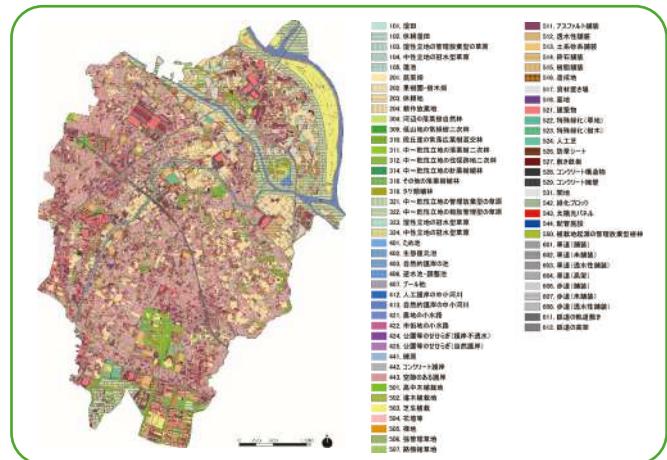


図 5-5 朝霞市グリーンインフラマップ

② 市民協働の生き物調査による生物データベースの整備

市民参加型の生き物調査を継続しつつ、今後は生き物を発見した場所（位置情報）を記録できるデータベースの新たな整備を検討します。これにより、生物多様性の現状を把握し、環境学習やまちづくりへの活用を目指します。



図 5-6 あさか生き物調査 2025

③ みどりの市民アンケート調査の実施

計画改定時などに、市民アンケート調査を定期的に実施します。みどりに対する市民の意識や要望を把握し、それを計画に反映させることで、市民の想いに寄り添ったみどりのまちづくりを進めます。

【基本施策】2 みどりの普及啓発の推進

私たちは今、地球温暖化や自然災害等のリスクに直面しています。こうした時代において、まちの強さと快適さを高めるための知恵が、自然の力を活かしたグリーンインフラです。公園や街路樹、身近な緑地は、単なる憩いの場ではありません。夏の暑さを和らげ、雨水を地下に戻し、災害時の被害を最小限に抑えるなど、私たちの暮らしを支える大切な役割を持っています。本市では、こうしたみどりの価値を市民の皆さんと共有し、地域全体で育む文化をつくるため、みどりの大切さを伝える活動を積極的に進めます。この取組を通じて、朝霞の豊かな自然を次世代に繋ぎ、安全で持続可能なまちづくりを実現していきます。

① グリーンインフラの多面的効用の評価と公表

ウェブサイト等を通じて、グリーンインフラが持つ多様な効果を分かりやすく紹介します。みどりがどのような役に立っているのか、その価値を正しく伝えることで、市民や事業者の皆さんとの理解を深め、緑化活動への参加のきっかけづくりを行います。

② グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導

建物をつくる際などの緑化の手続き（指導）において、防災や環境、景観など、グリーンインフラとしての効果を高める工夫を促します。これにより、災害に強く（レジリエンスの向上）、持続可能なまちづくりに貢献します。

③ 地域社会に貢献するみどりづくりの促進

環境への貢献や生物多様性を守る取り組みに対する、認証・表彰制度の活用を広めます。民間事業者や市民による素晴らしい緑化活動を後押しし、地域社会全体でみどりを育む文化を育みます。

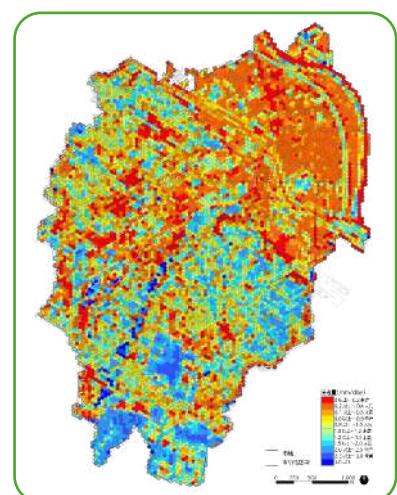


図 5-7 水循環の評価例

表 5-3 主な緑地・環境認証制度一覧

制度名	概要
TSUNAG 認定	国土交通省の新制度。緑の質や脱炭素への貢献を評価し、認定されると税制優遇などの支援が受けられます。
SEGES	企業の緑地が社会や環境にどう貢献しているかを評価。日々の丁寧な維持管理や活動の質が認定されます。
ABINC 認証	「生物多様性」に特化した認定。生き物が住みやすい環境か、生態系のバランスを重視して審査します。
自然共生サイト	民間や自治体が守る自然を国が認定する制度。国際目標「30by30」に貢献する保護地域として登録されます。
JHEP 認証	生き物の住みやすさを偏差値のように数値化し、自然価値の変化を科学的・客観的に証明する制度です。
CASBEE	建物の環境性能の通知表。省エネだけでなく、敷地の緑化や生物への配慮も総合的に評価されます。

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(4) みどりの支援体制の強化

【基本施策】1 財源の確保と活用 【重点施策】

快適で安全なまちづくりに、公園の整備やみどりの保全は欠かせません。しかし、限られた予算の中で、みどりを守り育てる取り組みを続けていくことは簡単なことではありません。本市では、将来にわたり豊かなみどりを残していくため、財源の確保に力を入れます。具体的には、防災力の向上やみどりの保全に役立つ国の補助金などを活用するとともに、みどりのまちづくり基金やふるさと納税などを積極的に活用します。こうして確保した財源を、公園やみどりの整備に役立てるとともに、市民や事業者の皆さんの活動支援にもつなげます。

① 補助金等の活用

国からの交付金や補助金を積極的に活用することで、みどりづくりのための財源を確保し、計画的なみどりの整備や管理を進めます。

表 5-4 公園整備・緑地保全支援制度一覧

実施主体	制度・財源	事業区分・メニュー名
国土交通省	社会資本整備総合交付金 (または防災・安全交付金)	都市公園・緑地等事業（基幹事業） └ 都市緑地保全事業 └ 都市公園安全・安心対策事業 └ 社会課題対応型都市公園機能向上促進事業 └ グリーンインフラ活用型都市構築支援事業
環境省	生物多様性保全推進交付金 地球環境基金（環境再生保全機構）	生物多様性保全推進支援事業 環境保全活動助成
林野庁	森林・山村多面的機能発揮対策交付金	地域環境保全タイプ
埼玉県	彩の国みどりの基金 (みどりの再生県民税) さいたま緑のトラスト基金	みどりの活動支援補助事業 こどもエコクラブ活動支援助成金 トラスト保全地取得・管理
民間 ・ その他	セブン-イレブン記念財団 イオン環境財団 公益信託武蔵野銀行みどりの基金 コープみらい財団 サイサン環境保全基金	環境市民活動助成 環境活動助成 緑化推進・自然環境保全活動助成 くらしと地域づくり助成 普通助成・緊急助成

② みどりのまちづくり基金等の運用

みどりのまちづくり基金やふるさと納税などの活用を広げます。市民や事業者の皆さんからの寄付を募ることで、みどりづくりの活動資金を確保し、みんなで支えるみどりのまちづくりを進めます。

表 5-5 様々な財源

みどりのまちづくり基金	ふるさと納税	企業版ふるさと納税
ネーミングライツ（命名権）	環境金融（J-クレジット等）	ロケーションサービス（広告料等）

【基本施策】2 みどり・公園分野における DX の推進 【重点施策】

市では、安全で住みよいまちづくりのために、グリーンインフラを生かす取り組みを目指しています。しかし、近年、公園を管理する業務の量が増え、これまでのやり方だけでは、みどりの質を保つことが難しくなっています。本市では、暮らしに欠かせない公園やみどりを未来へ守り、快適さを維持していくために、デジタル技術を活用した管理業務の効率化やみどりの情報発信についての検討を進めています。デジタル技術を取り入れることで、限られた人員や時間を、暮らしの安全や便利さを高めることに集中させるほか、公園の利用案内やイベント情報を充実させ、市民の皆さんのが公園づくりへ参加しやすい環境を整えます。

① 公園における DX の推進

公園の管理データ（公園台帳）のデジタル化や公園の案内・イベント情報の周知などにデジタル技術を活用することを検討します。これにより、公園管理を円滑に行うとともに、市民の皆さんへの情報提供を充実させます。

表 5-6 公園における DX 活用の事例

区分	事例	概要・期待される導入効果
基盤	公園台帳のデジタル化	公園の設備データをクラウドに移し、タブレットで見られるようにします。現地で情報の確認や更新ができるので、事務仕事がスムーズになります。
管理	市民投稿システム	遊具の故障などを、市民がスマホのアプリで写真に撮って市に知らせる仕組みです。職員が見回る手間を減らし、壊れた場所をすぐに直せるようになります。
管理	自動水やり・AI 診断	センサーで土の乾き具合を調べて自動で水やりをしたり、AI アプリで木の状態を調べたりします。人の手間を減らしながら、植物をしっかり管理できます。
防犯	スマートポール	防犯カメラ、街灯、Wi-Fi などが一つになった柱です。普段はみんなを見守り、災害の時にはスマホの充電やインターネットがつながる拠点になります。
防犯	AI 見守りカメラ	映像を録画するのではなく、AI が「転倒」や「悲鳴」などの異常だけを見つけます。プライバシーを守りながら、万が一の事故にすぐ対応できます。
分析	利用実態の可視化	スマホの電波などで「いつ、何人いるか」を自動で数えます。勘に頼らず、実際のデータをもとにして、本当に必要な遊具やベンチなどを整備できます。
広報	電子掲示板	張り紙の代わりに、デジタル画面でお知らせを表示します。遠隔操作ができるので、災害情報や熱中症アラートなどを、その場ですぐに伝えられます。
学習	解説 QR コード	樹名板の QR コードをスマホで読み込むと、詳しい解説や動画が見られます。大きなお金をかけずに、公園を「楽しく学べる場所」に変えられます。

② WEB を活用したグリーンインフラの普及啓発

ウェブサイトによる市のグリーンインフラの役割紹介など、デジタル媒体を活用してみどりが持つ多様な効果を伝えます。市民や事業者の皆さんのがグリーンインフラに対する理解を深めることで、みどりづくりへの参加を後押しします。

3 みどりのある暮らしを楽しむ

(1) みどりのシティプロモーションの展開

【基本施策】1 みどりに触れ楽しめるイベントの開催

市では、暮らしを支える豊かなみどりをかけがえのない宝として未来に引き継ぐため、みどりの魅力を発信する取り組みを展開します。まちのみどりは、単に美しい景観をつくるだけでなく、私たちの生活の安全を守り、人々が交流を育む大切な場所です。市民の皆さんとの自然とふれあいたいという想いを踏まえ、市では、みどりを身近に楽しみ、親しむ機会を広げていきます。

① みどり空間を活用したイベントの開催

彩夏祭や朝霞の森秋まつり、アサカストリートテラス、黒目川花まつり等、みどりのある空間を活用したイベントを継続的に開催します。市民の皆さんがあなたと一緒に親しみ、交流する機会をつくることで、地域の魅力を高めます。



ASAKA STREET TERRACE
(アサカ ストリート テラス)

② 里山環境の活用

里山観察会や田んぼの耕作など、里山環境を活用した体験活動を広げます。市民の皆さんがあなたと一緒に里山の自然に触れ、その価値を理解し、保全活動への関心を高めるきっかけを提供します。



あさか里山クラブ主催の
タケノコ掘り体験

③ 農を通じた交流の場づくり

農業祭等のイベントを通じて、農を通じた市民交流の場をつくることで、都市農業への理解を深め、地域の活性化と食育を進めます。



朝霞市農業祭

【基本施策】2 情報発信の強化と充実 【重点施策】

市内の豊かなみどりや水辺、そして地域に根差した市民活動は、朝霞らしい豊かな暮らしをつくる大切な土台です。しかし、素晴らしいイベントやみどりの魅力が、市民の皆さんに十分に届いていない現状があります。情報が届かなければ、みどりづくりへの参加や地域の楽しみを見つけるきっかけも生まれません。そこで市は、市民の皆さんとみどりをより強くつなぐため、情報発信に力を入れます。これにより、地域の活力を高め、市民一人ひとりが、みどりとともにいきいきと過ごす暮らしを実現します。

① みどりの情報発信

みどりのある場所を活用したイベントの周知など、みどりに関する情報発信を充実させます。市民の皆さんの関心を高めることで、みどりづくりへの参加を後押しします。

② 市民イベント情報の集約と発信

市民団体などが主催するイベントの情報をとりまとめ、広報の支援を行います。これにより、市民活動を盛り上げるとともに、みどりに関するイベントへの市民の皆さんの参加を後押しします。

第28回黒目川 川まつり
～こどもおとなもハンドルのある人もない人も～

日時 8月26日 土曜日 10:00～14:00
場所 溝沼郵便局わきの黒目川と河川敷

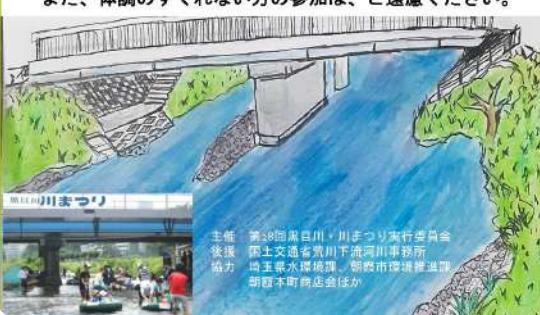
できること



魚とり 水遊び カヌー体験

他にもタイヤボート遊び、ザリガニつり体験（持ち帰りなし）など

川で安全にあそぶために、ぬれてもよい靴、ぼうし、飲み物を持ってきてください。
また、体調のすぐれない方の参加は、ご遠慮ください。



主催 第28回黒目川 川まつり実行委員会
後援 国土交通省東京川下流河川事務所
協力 埼玉県水防振興課、朝霞市環境推進課、朝霞本町商店会ほか

市民グループ主催のイベントの周知

第1・2回シンボルロードの魅力と課題から緑地管理を考える会

共催：朝霞市、朝霞基地跡地の自然を守る会

1.26 時間 10:00～12:00
場所 朝霞市役所 5階 大会議室

シンボルロードは、令和2年のオープン以来、大径木が多く緑陰豊かな憩いの場として多くの市民に利用されています。
一方で土壌の条件や、樹木の老木化や密度等、緑の管理に関する課題も多く見受けられます。
今回の勉強会は、令和6年3月に開催された勉強会に引き続き、「（公財）都市緑化機構様にご協力いただき、専門家の幅広い見地からシンボルロードの緑地管理のアイデアについてお話をさせていただきます。

プログラム

講演「シンボルロードの魅力と課題から緑地管理を考える」
（公財）都市緑化機構
環境化政策担当研究会
ワカイ・カクルクリーン分科会
伊賀 伸哉 氏

2. 地域懇親会

講演「（公財）都市緑化機構
環境化政策担当研究会
伊賀 伸哉 氏
野村 康一 氏
森木 伸哉 氏
藤田 康一 氏
今井 一郎 氏

内容

講演・懇親会
事前申込不要

注意事項

現地観察を行いますので、動きやすい服装でお越しください。

シンボルロードとは

こちらのQRからご確認ください

お問合せ
埼玉県朝霞市本町1丁目1番1号
朝霞市役所 都市建設部 みどり公園課 Tel. 048-463-0375 (平日10:00～17:00)

市民参加イベントの周知

3 みどりのある暮らしを楽しむ

(2) みどりのある暮らしの実践

【基本施策】1 みどりを楽しむ 【重点施策】

今の都市生活において、みどりは単なる癒しではなく、暮らしを支える大切な存在です。ヒートアイランド現象の緩和や災害への備え、私たちの心と体の健康や、地域のつながりを生む役割も果たしています。

ぜひ、日々の暮らしの中で、市内の様々な場所にあるみどりに触れ、楽しんでみてください。

私たち一人ひとりがみどりに関心を持ち、楽しみながら関わることが、将来にわたりみどりを守り育てる、持続可能な朝霞市につながります。

① 家庭での緑化や菜園づくり

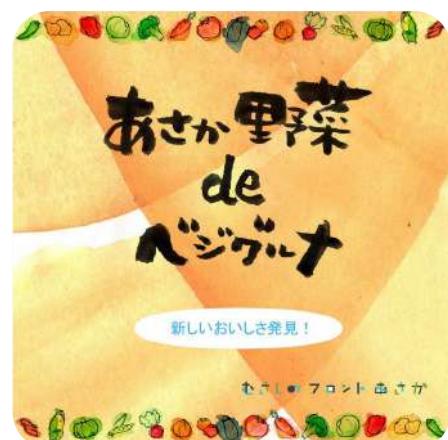
自宅の庭やベランダで、草花や野菜を育ててみませんか。身近な場所で土や植物に触れることで、育てる喜びを感じ、みどりのある心地よい暮らしが生まれます。



農産物直売所
(浜崎農業交流センター)

② 農産物直売施設等の利用

浜崎農業交流センターや市役所での直売などを利用して、朝霞市内で育った新鮮な農産物を味わいましょう。



地産地消の取組

③ 地産地消の実践

地元の野菜などを選んで購入する「地産地消」を実践してみましょう。地元の農業を応援することにつながり、食の安全や安心への関心も高まります。

④ みどりを生かした健康づくり

グリーントレイルマップ（散策マップ）を使ってまちを歩いたり、公園の健康遊具を利用したりして、みどりの中で健康的な体づくりを楽しみましょう。



ウォーキングイベント

⑤ みどりのイベントへの参加

公園などで行われるイベントに参加してみましょう。みどりに触れ、学び、多くの人と交流することで、みどりへの愛着がさらに深まります。

【基本施策】2 みどりのボランティア活動への参加

みどりは、私たちの暮らしに心のゆとりや安らぎを与えてくれます。この大切なみどりを未来へつなぎ、その恩恵を受け続けるためには、行政による管理だけでなく、私たち一人ひとりが関わることが大切です。みどりを守り育てる活動は、自分たちの住むまちへの愛着を深めることにもつながります。

例えば、講習会に参加して「学び」、その知識を生かしてボランティア活動などを「実践」することで、みどりが元気になります。その結果、私たちはみどりの恩恵をさらに「楽しむ」ことができます。

ぜひ、こうした「学び・実践・楽しむ」という良い循環を、毎日の暮らし（ライフスタイル）に取り入れてみませんか。みどりのボランティア活動への参加を通じて、まちを支える「みどりの市民力」を高めていきましょう。

① みどりのボランティア活動への参加

公園サポーターや里山ボランティア、道路の美化活動などに参加してみませんか。自分たちの手でみどりを手入れすることで、まちが美しくなるだけでなく、地域への愛着もより一層深まります。



きれいなまちづくり運動

② みどりのリサイクルへの参加

刈った草や落ち葉などのリサイクル活動に協力しましょう。みどりを資源として有効に活用することで、環境に優しく、自然の循環を大切にする社会づくりにつながります。



図 5-8 みどりのリサイクルの事例

③ みどりに係る講習会への参加

みどりに関する講習会に参加して、知識や技術を身につけましょう。みどりの育て方や手入れの方法を学ぶことで、一人ひとりが自信を持って活躍できる「みどりの担い手」になることができます。



講習会の風景

3 みどりのある暮らしを楽しむ

【基本施策】3 みどりの交流の拡大

わたしたちの身近なみどりは、心と体の健康を守り、子どもたちの豊かな成長を支える大切な場所です。このみどりの良さをみんなで分かち合い、世代や立場を超えたふれあいの輪を広げていくことが、私たちが目指す「暮らしつづけたいまち」につながります。

「みどりのある暮らし」を楽しみながら、みどりを育み、共有し、誰もが主役となる交流の輪を一緒に広げていきましょう。

① 民間のみどりの公開

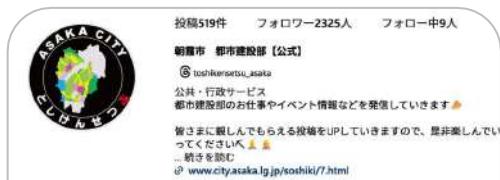
大学や寺社などで開催されるイベントに出かけたり、個人や企業の方が大切にしているお庭を見せてもらったりしてみませんか。地域の中にある、普段は気づかない素敵なみどりと出会うことができます。



道路に開かれた集合住宅の庭



境内地におけるイベント開催



② SNS を活用したみどりの交流

朝霞で見つけた素敵なみどりの写真を、SNS で発信してみませんか。「いいね」やコメントを通じた交流が、新しい発見やみどりづくりに参加するきっかけになります。



SNS による旬な情報の発信



SNS を活用した
みどりの交流機会の創出

6章 地域別の取組

《地域別計画の概要》

内閣木、北部、東部、西部、南部の5つの地域ごとに、それぞれの地域の特性を生かしたみどりのまちづくりについて示しています。地域別計画は、地域別の「みどりのカルテ」と「みどりの方針」の2つから成り立っています。

- みどりのカルテは、アンケートによる市民の皆さんとの声やみどりの持つ役割から見た地域ごとの特徴をまとめています。
 - 地域別のみどりの方針は、地域の主な課題を整理するとともに、これから取り組む主な内容を地域ごとの方針図（地図）とあわせて示しています。

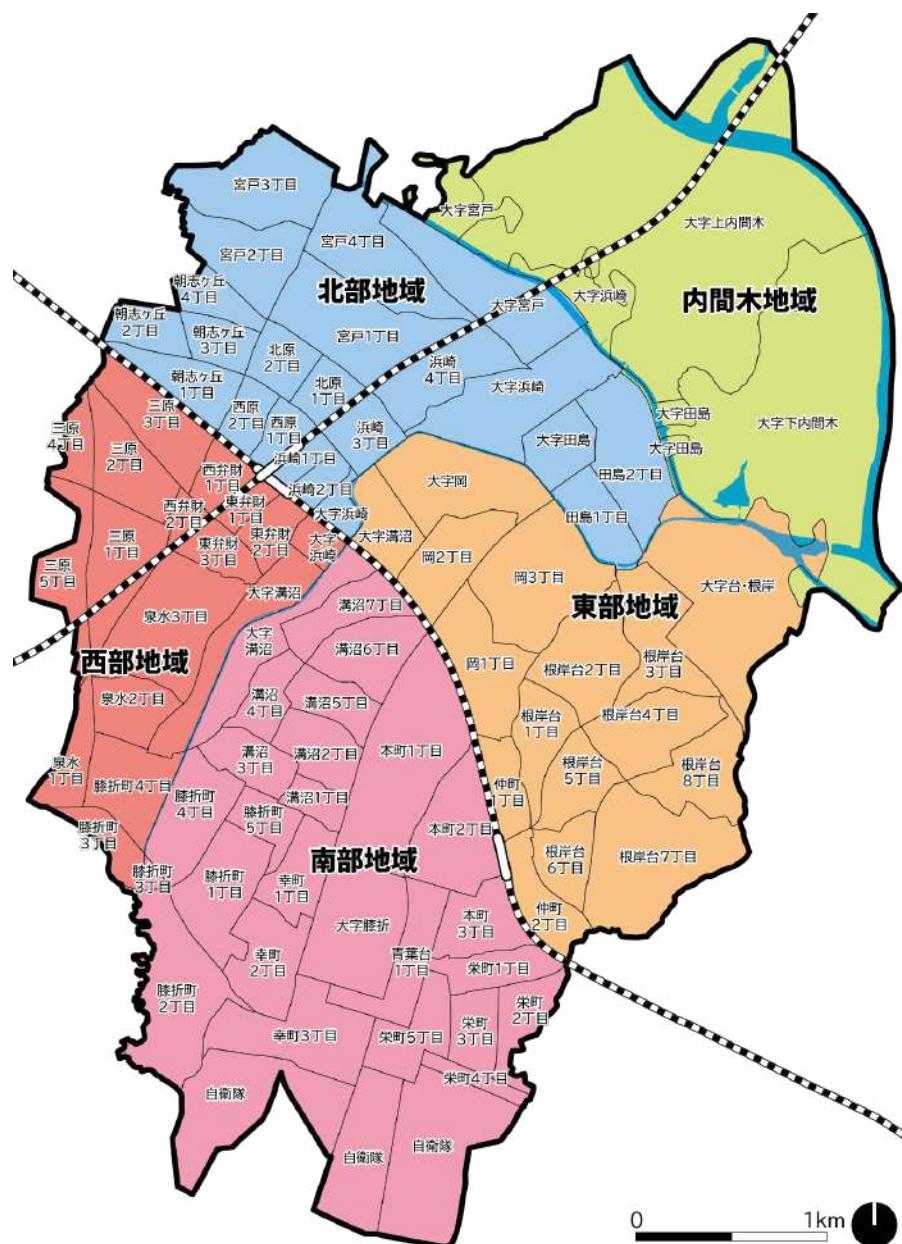


図 6-1 地域別計画の地域割り

グリーンインフラ地域別カルテは、以下の構成で作成しています。

表 6-1 グリーンインフラ地域別カルテの構成

地域名				グリーンインフラの効用別分析	効用別分析結果
面積	人口	みどり率	地域の位置		健全な水循環を支えるみどり
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度				都市の気温上昇を抑えるみどり
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり				地球温暖化の緩和に貢献するみどり
	問 3 将来に残していきたいと思うみどり				生き物の生息空間となるみどり
	問 4 公園利用頻度				まちの美観・郷土の風景を形成するみどり
	問 5 近くの公園についての評価				暮らしに息づく農業活動の場となるみどり
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策				健康づくりの場となるみどり
	問 7 緑化活動等への参加経験				身近な遊び場となるみどり
	問 10 みどりを守るための仮定の支払額				にぎわいや交流の場となるみどり
					防災拠点となるみどり

表 6-2 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GIタイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GIタイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1haあたりの歩道等の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m ² /人)	評価地点から500m以内における1000m ² 以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積	面積の平均
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (m ² /人)	評価地点から500m以内における学校や1000m ² 以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (m ² /人)		避難有効面積の平均

内間木地域

面 積	人 口	みどり率	
3.7km ²	1,309 人	64.7%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b. お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	0.36 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		d. お住いの近くの公園に満足 している	0.04 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		g. 災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある	0.04 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		h. 良いまちの景観がつくられ ている	0.00 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	新河岸川（22 件）、荒川（5 件）、秋ヶ瀬（2 件）	
	問 3 将来に残したいと 思うみどり	新河岸川（6 件）、荒川（3 件）、秋ヶ瀬（1 件）	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5 回（市全体 30.9 回）	
	問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a. ベンチなどの休憩施設が充 実している	0.22 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)
		c. 公園の植物がよい景観をつ くっている	0.11 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)
	問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】だれもが気軽に利用できるように 小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (34.4%)	【2位】健康づくりや自然とのふれあ いの場となる川沿いの散歩道を充実 させる (21.9%)
		【3位】道路においてみどり豊かで安全 に歩ける歩道空間を整備する (12.5%)	【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間 を整備し運営する (6.3%)、公園や河川、農地を 活用したイベントを充実させる (6.3%)、まちづ くりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させ る (6.3%)
	問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化 (28.6%)	【1位】全てに参加したことがない (28.6%)
		【3位】道路などの清掃活動 (23.8%)	【4位】市民農園や近所の空き地を借り た野菜や草花の生産 (9.5%)
	問 10 みどりを守るために 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場とな るみどり (¥310)	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温 暖化を緩和するみどり (¥215)
		【3位】日射の緩和等により都市の気温 上昇を緩和するみどり (¥135)	【4位】まちの美観、表土の風景を形 成するみどり (¥70)



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数 (件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m²/人)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
内間木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
地域全体		0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	この地域は、地下水が浅い場所にあるため、雨水が地面に染み込みにくい特徴があります。そのため、雨水を一時的に貯める場所を確保することが大切です。
都市の気温上昇を抑えるみどり	荒川や新河岸川などの水辺に囲まれており、夏に水の張られる田んぼや、木陰を作る屋敷林（家の周りの林）などがあるため、他の地域に比べて地面の温度が低くなっています。しかし近年は、物流倉庫や工場が増えており、気温が上がる「ヒートアイランド現象」が見られ始めています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	荒川や新河岸川、朝霞調節池の広い草地のほか、田畠や屋敷林などが広がっており、二酸化炭素を吸収する大きな役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	朝霞調節池は、水面から湿地、そして林へと環境が移り変わる環境があり、多くの種類の生き物が暮らしています。また、川や水辺は生き物の移動ルート（エコロジカルネットワーク）としても重要で、特に朝霞調節池とその周辺は優れた自然環境です。点在する屋敷林や林も、森や草原を好む生き物たちのすみかになっています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	荒川、新河岸川、朝霞調節池は、市民の皆さんに「豊かで魅力的なみどり」として親しまれています。こうした水辺や田園の風景が、内間木地域らしい美しい景観をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	まとまった農地が残っており、水田や畠として利用されています。しかし、近年は使われていない農地（休耕地）も多く見られるようになっています。
健康づくりの場となるみどり	荒川沿いには、サイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広く整備されています。新河岸川の左岸には遊歩道がありませんが、今後、新しい道路（和光富士見バイパス）ができるのに合わせて、この地域を縦断する歩道の整備が期待されています。
身近な遊び場となるみどり	現在、公園は少ない状況ですが、川沿いの広い空間や神社・お寺の境内などがあります。今後は、新しい道路の整備に合わせて「内間木公園」のリニューアルが計画されており、地域の中心となる公園づくりが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	内間木公園や神社・お寺の境内は、お祭りやイベントを開くための広場として活用できると考えられます。
防災拠点となるみどり	内間木公園のリニューアルにおいて、災害時にも役立つ機能が備わることが期待されています。

内間木地域のみどりの方針

- 《身近な公園の不足》 この地域は公園が少なく、市民アンケートでも「身近な憩いの場がほしい」という声が最も多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川や新河岸川、朝霞調節池などの豊かな自然環境があります。自然を守りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、健康づくりの場として、もっと自由に活用する工夫が求められています。
- 《田園景観の保全と活用》 使われていない農地（休耕地）が比較的多くあります。この地域ならではの田園風景や、そこに暮らす生き物たちをどう守り、活用していくかが課題となっています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い地域です。その一方で、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《地面がアスファルトなどに覆われることによる環境への影響》 近年、工場などが増え、地面がアスファルトで覆われることが多くなりました。そのため、夏場の地面の温度上昇や、大雨の際に雨水が一気に流れ出してしまうことへの対策が必要です。

主な課題

① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークをつくる

- 公園が不足している現状に対し、内間木公園を広げる整備を進めます。住民参加のワークショップなどを通じて、「自分たちの手で育てる公園」としてリニューアルし、身近な遊び場として、また地域の交流拠点や防災拠点としての整備を検討します。
- 新しい道路（バイパス等）の整備に伴う周辺地域の開発においては、内間木公園など地域のみどりの拠点とのつながりを大切にし、並木道や公園など、みどりの空間を充実させるよう働きかけます。

② 田園と水辺の景観を守り・生かす

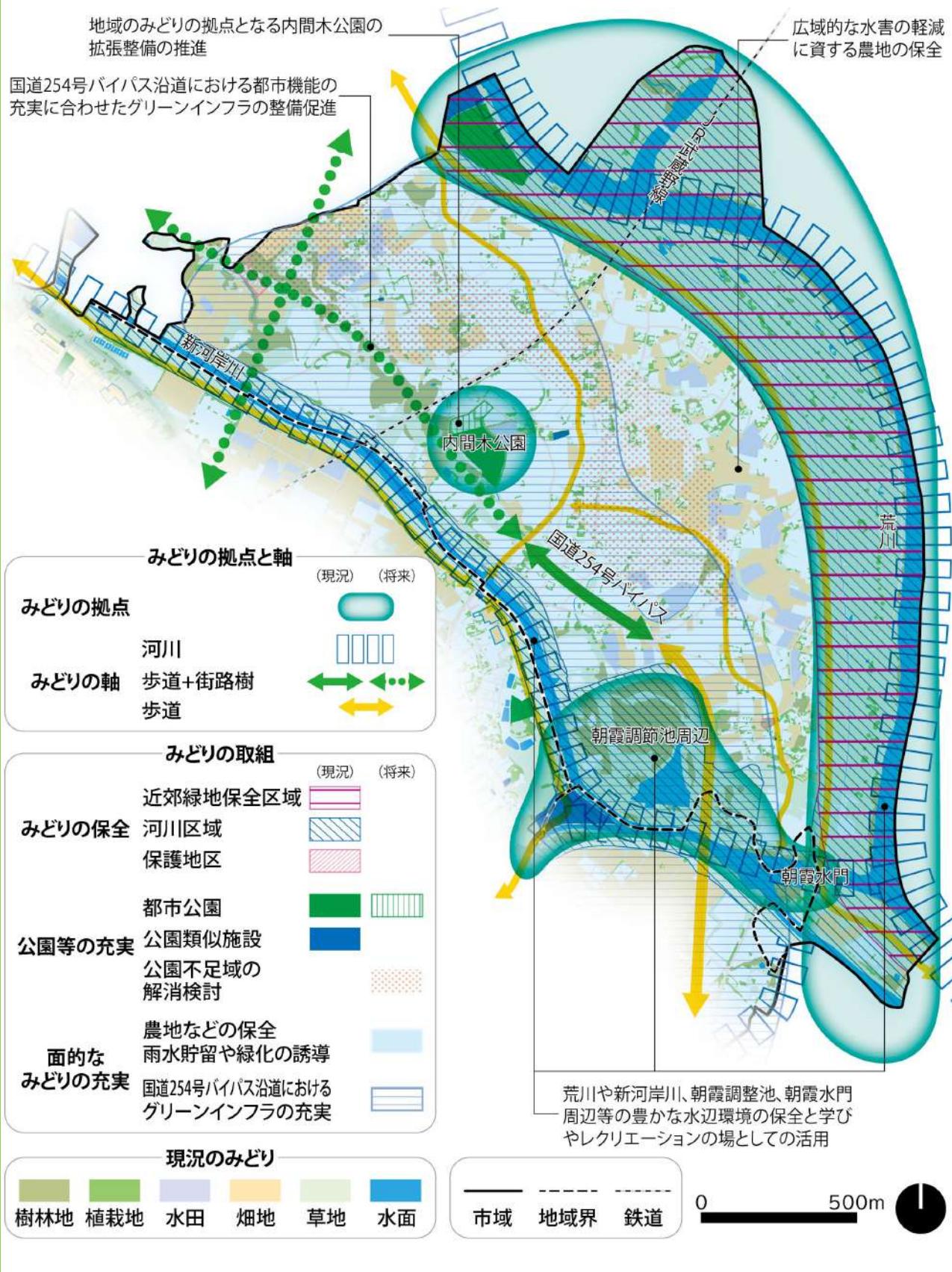
- 農業の担い手を育てたり、農作業の支援を行ったりするとともに、「農地バンク」の活用などを通じて、農地が減らないような取り組みを進めます。
- 地域の財産である田園風景や水辺の環境を守りながら、その魅力を市民の皆さんが楽しめるような活用方法を考えます。
- 荒川や新河岸川、朝霞調節池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら生かし、地域の中の人も外の人も楽しめる、魅力的な水辺空間づくりを進めます。

③ 災害に強く、環境にやさしい地域をつくる

- 農地を守るとともに、開発が行われる場合は雨水を貯める機能を確保してもらうなど、雨水を一時的に貯める機能（田んぼや調整池など）を生かし、水害のリスクを減らすまちづくりを考えます。
- バイパス整備が行われる際には、豊かな自然環境が失われることのないよう、道路区域内への緑地帯や、雨水を貯めたり地下に浸みこませたりする施設の設置について検討します。
- バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラ（自然が持つ多様な機能）を生かし、環境や景観に配慮した取り組みが進むよう検討します。

主な取組

みどりの方針図



北部地域

面 積	人 口	みどり率	
3.4km ²	30,979 人	31.3%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b. お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	-0.02 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		d. お住いの近くの公園に満足 している	-0.12 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		g. 災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある	-0.18 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		h. 良いまちの景観がつくられ ている	-0.02 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川 (331 件)、新河岸川 (22 件)、わくわくドーム (9 件)、 田島緑地 (9 件)、北割公園 (3 件)、北朝霞公園 (2 件)	
	問 3 将来に残したいと 思うみどり	黒目川 (154 件)、新河岸川 (6 件)、わくわくドーム (2 件)、 田島緑地 (2 件)、北割公園 (2 件)、北朝霞公園 (2 件)	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a. ベンチなどの休憩施設が充 実している	-0.14 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)
		c. 公園の植物がよい景観をつ くっている	0.04 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)
	問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全 に歩ける歩道空間を整備する (16.5%)	【2位】だれもが気軽に利用できるよ うに小規模でも身近な公園や緑地を 充実させる (15.4%)
		【3位】健康づくりや自然とのふれあい の場となる川沿いの散歩道を充実させる (14.3%)	【4位】様々なレクリエーションを樂 しめるように大きな公園を充実させ る (8.1%)
	問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (11.7%)	【2位】生け垣や花壇など自宅の庭の 緑化 (10.5%)
		【3位】道路などの清掃活動 (9.2%)	【4位】市民農園や近所の空き地を借り た野菜や草花の生産 (7.2%)
	問 10 みどりを守るための 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場とな るみどり (¥151)	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖 化を緩和するみどり (¥151)
		【3位】水害の軽減など自然災害による 被害を軽減するみどり (¥135)	【4位】日射の緩和等により都市の気 温上昇を緩和するみどり (¥121)



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数 (件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオープンベース面積 (m/ha)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m/ha)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m/ha)
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	187.9	-3.85	2.11	2.97	2.97
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12
	大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65
	大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95
	地域全体	0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	住宅などが多いため、市全体と比べると、雨水が地面に浸み込みにくい地域です。しかし、畑や公園などの土がある場所ではよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や畑が多いため、全体的に地面の温度は高めです。一方で、川沿いや木々のある場所は涼しい場所（クールアイランド）になっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	斜面の林や川沿いの草地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では木が高齢になったり、「ナラ枯れ」という病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	新河岸川と黒目川には、たくさんの種類の生き物がいます。畑と川がセットになって、生き物のすみかをつくっています。まちなかでも、小さなみどりが生き物の暮らす場所になっています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが「地域のみどり」として親しまれていますが、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	宮戸から田島にかけて、まとまった畑が広がっており、まちなかにも小さな畑が点在しています。宮戸3丁目では、斜面の林と一緒になった田んぼをどう守っていくか検討されています。
健康づくりの場となるみどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に使われており、健康づくりの大切な場所です。一方で、駅から離れた場所では、歩きやすい歩道が十分につながっていません。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新しく「みやど公園」が整備されました。また、「保全緑地」も遊び場として活用できる可能性があります。
にぎわいや交流の場となるみどり	まちなかには、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

北部地域のみどりの方針

- 《身近な公園の不足》 《身近な公園の不足》人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで不足しています。市民アンケートでも「もっと公園がほしい」という声が多く挙がっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くあります。駅から離れた地域などで誰もが安心して歩ける道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、夏の暑さ（ヒートアイランド現象）を和らげるためのみどりが重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸エリアでは不足しています。
- 《樹林地の保全》 貴重な自然である樹林地ですが、木が高齢になり「ナラ枯れ」という病気の被害が広がっています。樹林地を残すことに加え、将来にわたってどう手入れをしていくかが課題です。
- 《農業景観の保全》 黒目川や新河岸川の沿岸には、美しい田園風景が広がっています。これらは市民の暮らしを支える大切な場所であり、保全が望まれます。また、宮戸緑地の周辺には、斜面の林と水田、川がセットになった貴重な風景が残されています。昔ながらの農業の風景として、守っていくことが求められます。

主な課題

①暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- a. 身近な公園が不足している地域では、「市民緑地制度」や「立体都市公園制度（施設の上などを活用した公園）」、今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 遊びや交流の拠点となる公園を確保するため、「（仮称）浜崎ふれあい公園」の用地として取得した土地を含め、活用を検討します。
- c. 新しい道路の整備にあわせて、安全で歩くことが楽しくなるような「みどりのネットワーク」をつくります。
- d. 雨水を地面に浸み込ませたり、生き物のすみかになったりする、まちなかの農地を守ります。

②黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を守り・楽しむ

- a. 公園が少ないこの地域において、黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、市民の皆さんのが地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 黒目川沿いの田園風景は、身近に農業とふれあえる貴重な場所です。次の世代へ引き継いでいくため、保全活動を支援します。
- c. 新河岸川周辺の林や田園風景をひとつの「まとまり」として捉え、その豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐための活動を支援します。

③持続可能な都市環境をつくる

- a. 駅前広場や公共空間の整備においては、人が主役の居心地が良く歩きたくなる（ウォーカブルな）空間や、交流の場づくりを進めます。
- b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水を蓄えるなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- c. ナラ枯れ等の課題を抱える樹林地については、専門家や市民の皆さんと協力しながら、将来にわたって元気な状態を保てるような手入れの方法を考えます。

主な取組

みどりの方針図



みどりの取組

みどりの保全	(現況)		(将来)	
	特別緑地保全地区	河川区域	保護地区	生産緑地地区
みどりの軸				
公園等の充実				
公園不足域の解消検討				
市民農園				
緑化推進				
雨水浸透貯留の推進				
農地などの保全				
雨水貯留や緑化の推進				
駅周辺のウォーカブル空間の整備				

みどりの拠点と軸

みどりの拠点	(現況)	(将来)
河川		
みどりの軸	歩道+街路樹	歩道
歩道		
現況のみどり		
樹林地	植栽地	水田
栽培地		畠地
水田	草地	水面
畠地		
草地		
水面		
地形のひだ (崖線)		
市域	地域界	鉄道

0 500m

東部地域

面 積	人 口	みどり率			
3.6km ²	30,883 人	37.3%			
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b. お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	0.22 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)		
		d. お住いの近くの公園に満足 している	-0.03 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)		
		g. 災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある	0.01 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)		
		h. 良いまちの景観がつくられ ている	0.16 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)		
	問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川 (331 件)、城山公園 (70 件)、新河岸川 (22 件)、 越戸川 (12 件)、田島緑地 (9 件)、水久保公園 (6 件)、 朝霞駅周辺 (5 件)、高橋家住宅 (4 件)、東圓寺 (3 件)			
	問 3 将来に残したいと 思うみどり	黒目川 (158 件)、城山公園 (85 件)、根岸台の斜面林 (10 件)、 新河岸川 (6 件)、格塚古墳公園 (4 件)、水久保公園 (4 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、高橋家住宅 (3 件)、越戸川 (3 件)、根岸台自然公園 (3 件)			
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1 回 (市全体 30.9 回)			
	問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a. ベンチなどの休憩施設が充 実している	0.07 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)	b. 安全に遊べる遊具が充 実している	
		c. 公園の植物がよい景観をつ くっている	0.16 (そう思わない-1.0 ~1.0そう思う)	h. 近くの住民によく利用 されている	
	問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】 道路においてみどり豊かで安全 に歩ける歩道空間を整備する (18.2%)	【2位】 だれもが気軽に利用できるよ うに小規模でも身近な公園や緑地を 充実させる (16.8%)		
		【3位】 健康づくりや自然とのふれあい の場となる川沿いの散歩道を充実させる (13.3%)	【4位】 民間の協力を得て、魅力的な 公園的空間を整備し運営する (7.4%)		
	問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】 生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化 (12.4%)	【2位】 道路などの清掃活動 (11.3%)		
		【3位】 全てに参加したことがない (10.6%)	【4位】 河川の清掃や草刈り (7.0%)		
	問 10 みどりを守るための 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】 水害の軽減など自然災害による 被害を軽減するみどり (¥142)	【2位】 CO ₂ の吸収減となり地球温 暖化を緩和するみどり (¥129)		
		【3位】 曜射の緩和等により都市の気温 上昇を緩和するみどり (¥128)	【4位】 こどもの遊び場や散策の場と なるみどり (¥112)		

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数 (件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオーブンスペース面積 (m²/ha)	非水害時ににおける一人あたりの避難難有効面積 (m²/人)	水害時にあたるの避難有効面積 (m²/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75
	大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57
地域全体		0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では家が増えていますが、畠などの自然も残っており、これらが混ざり合っている地域です。畠などの土がある場所は、雨水がよく浸みこむため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	家が増えて地面の温度が高くなりやすい地域ですが、公園や斜面の林などは涼しい場所（クールアイランド）になっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	段丘の縁（ふち）にある斜面の林や、広く残っている農地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では木が高齢になったり、「ナラ枯れ」という病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	家が増える一方で、農地や林が点在し、いろいろな環境がパッチワークのように混ざり合っています。そのため、多くの種類の生き物が暮らしており、生き物の移動ルートとしての役割も果たしています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、地域で最も魅力的なみどりとして親しまれています。ほかにも、公園や畠、並木道、里山などが、この地域らしい美しい風景をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	岡や根岸といった地区には、まとまった農地が広がっており、それ以外の場所にも生産緑地が点在しています。身近な場所で農業に触れられる地域です。
健康づくりの場となるみどり	黒目川や公園、斜面の林など、みどり豊かな環境に恵まれています。これらを結ぶ散策ルート（トレールコース）もありますが、歩道が途切れている場所などもあり、整備が必要です。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝霞駅の周辺で足りていません。新しい公園づくりや、保全されている樹林地を遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	市街地、特に朝霞駅の周辺には、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	災害時の拠点となるような公園が不足しています。

東部地域のみどりの方針

主な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線と呼ばれる斜面のみどりや田園風景といったこの地域ならではの景色をどう守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》 宅地化が進む中でも、みどりが持っている「環境を整える力」（地下水を蓄える、水害を抑える、夏の暑さを和らげる、生き物を守るなど）を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるような「みどりのネットワーク」をつくることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間づくり》 多くの人が集まる朝霞駅周辺は、公園が不足しています。子どもたちの遊び場や、多世代が交流できる広場の確保が求められます。一方で、新しい公園もできており、そこを中心としたコミュニティ活動を盛り上げることも必要です。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、仲町から根岸台1丁目・5丁目・6丁目付近において不足しています。

①景観資産を守り、まちの安全性と魅力を高める

- a. 住みよい環境をつくっている崖線のみどりや農地などの風景を守っていくため、市民や事業者の皆さんと協力して、その大切さを共有していきます。
- b. 崖線には、豊かな自然のシンボルである湧水が多く残っています。この水を守るために、台地の上では、雨水が地面に浸み込みやすくなるようにします。開発が行われる場所でも、雨水を一時的に貯めたり浸みこませたりする工夫を進め、湧水を守るとともに、大雨による浸水被害を減らすまちづくりを進めます。
- c. 旧高橋家住宅等、地域のみどりと一緒にになった歴史的な建物を守ります。また、地域の歴史や文化を感じられる散策ルート（トレイルコース）などを充実させ、市民の皆さんのが地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やします。

②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- a. 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、「市民緑地制度」や「立体都市公園制度（施設の上などを活用した公園）」、今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 民間の開発と連携して、誰もが使える広場（オープンスペース）を確保できないか検討します。
- c. ヒートアイランド現象の緩和や、地下水を蓄えるなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。

③みどりのある暮らしの実践

- a. この地域にある農地や林、歴史的な建物を生かし、農業体験や自然学習など、身近な場所でみどりに触れる機会を充実させます。
- b. 地元の農産物を味わう「地産地消」や、公園サポーターへの参加、自宅でのガーデニングなど、みどりを楽しむ暮らしを広げる取り組みを進めます。

主な取組

みどりの方針図



西部地域

面 積	人 口	みどり率	
2.2km ²	29,563 人	18.9%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b. お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	-0.10 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		d. お住いの近くの公園に満足 している	-0.10 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		g. 災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある	-0.14 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		h. 良いまちの景観がつくられ ている	-0.10 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川 (331 件)、島の上公園 (7 件)、南割公園 (6 件)	
	問 3 将来に残したいと 思うみどり	黒目川 (154 件)、島の上公園 (10 件)、南割公園 (7 件)、 朝霞台駅の木々 (2 件)、弁財公園 (2 件)	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a. ベンチなどの休憩施設が充 実している	-0.07 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	c. 公園の植物がよい景観をつ くっている	0.07 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)	
	問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】 道路においてみどり豊かで安全 に歩ける歩道空間を整備する (18.6%)	【2位】 だれもが気軽に利用できるよ うに小規模でも身近な公園や緑地を 充実させる (15.3%)
	【3位】 健康づくりや自然とのふれあい の場となる川沿いの散歩道を充実させる (12.4%)	【4位】 民間の協力を得て、魅力的な 公園的空間を整備し運営する (9.3%)	
	問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】 全てに参加したことがない (13.0%)	【2位】 道路などの清掃活動 (9.7%)
	【3位】 生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化 (9.3%)	【4位】 市民農園や近所の空き地を借り た野菜や草花の生産 (8.0%)	
	問 10 みどりを守るために 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】 CO ₂ の吸収減となり地球温暖化 を緩和するみどり (¥182)	【2位】 曜射の緩和等により都市の気 温上昇を緩和するみどり (¥141)
	【3位】 避難地や防災拠点として災害時 の生活を復旧・支援するみどり (¥121)	【4位】 水害の軽減など自然災害による 被害を軽減するみどり (¥118)	



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数 (件)	農業活動面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m²/ha)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m²/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
	地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面に浸みこみにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度は高めです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面の林など木々がある場所は涼しい場所（クールアイランド）として、まちの暑さ（ヒートアイランド現象）を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	建物や住宅が多いため、みどりの量は少なく、二酸化炭素を吸収する力は弱めです。しかし、段丘の斜面にある林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの畑は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	黒目川は、水辺と草地があるため、たくさんの種類の生き物が暮らしています。斜面の林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして一番人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。
健康づくりの場となるみどり	黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分ではありません。
身近な遊び場となるみどり	まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に足りていません。特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを、遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくるだけでなく、今ある公園などをうまく使って、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	三原地区では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

西部地域のみどりの方針

主な課題

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面に浸み込みにくいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、夏の暑さ（ヒートアイランド現象）も課題となっています。「グリーンインフラ」の考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケートでも公園に対する満足度が低く、数も質も良くしていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、「身近な公園がほしい」という声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》 清掃などの緑化活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんのが主役となってまちづくりに参加する「きっかけ」が必要です。

主な取組

① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラ（自然が持つ機能）の視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- 公園や公共施設において、雨水を地面に浸み込ませる機能を充実させます。また、民間の開発においても、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取り組みを進めます。

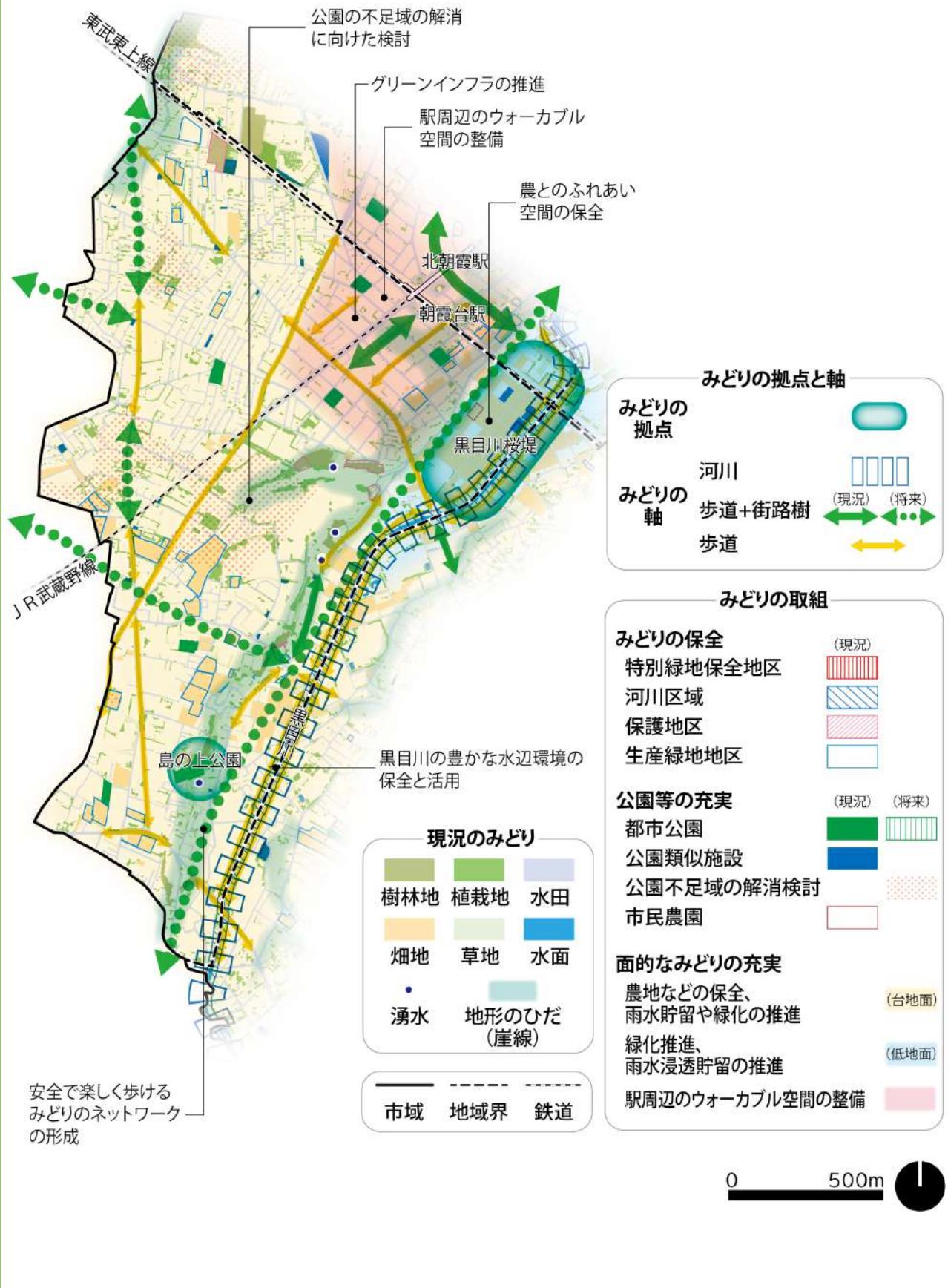
② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- 身近な公園が不足しているため、「市民緑地制度」や今ある公園の充実など、新しい仕組みも活用しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- 新しい道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

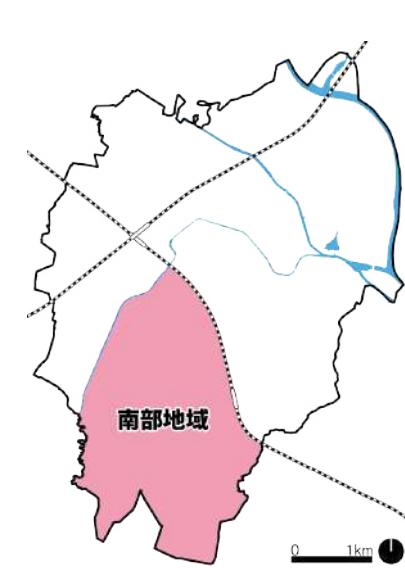
- 公園が少ないこの地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、市民の皆さんのが地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- 市民の皆さんのが行う公園の清掃や花壇づくりなどを支援し、協力して維持管理を行う「ふれあいの輪」を広げていきます。
- 緑化活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

みどりの方針図



南部地域

面 積	人 口	みどり率	
5.3km ²	53,204 人	26.6%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b. お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	0.41 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		d. お住いの近くの公園に満足 している	0.29 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		g. 災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある	0.22 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		h. 良いまちの景観がつくられ ている	0.34 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川 (331 件)、青葉台公園 (116 件)、シンボルロード (115 件)、朝霞の森 (106 件)、市役所周辺 (48 件)、朝霞中央公園 (43 件)、滝の根公園 (35 件)、公園通り (29 件)、基地跡地 (15 件)、朝霞駅周辺 (5 件)、広沢の池 (3 件)	
	問 3 将来に残したいと 思うみどり	朝霞の森 (158 件)、黒目川 (154 件)、青葉台公園 (55 件)、シンボルロード (42 件)、基地跡地 (34 件)、滝の根公園 (27 件)、公園通り (14 件)、朝霞中央公園 (13 件)、市役所周辺 (9 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、広沢の池 (3 件)	
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9 回 (市全体 30.9 回)	
	問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a. ベンチなどの休憩施設が充 実している	0.19 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
		c. 公園の植物がよい景観をつ くっている	0.37 (そう思わない-1.0~ 1.0そう思う)
	問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】 道路においてみどり豊かで安全 に歩ける歩道空間を整備する (18.8%)	【2位】 だれもが気軽に利用できるよ うに小規模でも身近な公園や緑地を 充実させる (14.0%)
		【3位】 健康づくりや自然とのふれあい の場となる川沿いの散歩道を充実させる (11.8%)	【4位】 民間の協力を得て、魅力的な 公園的空間を整備し運営する (8.2%)
	問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】 全てに参加したことがない (14.5%)	【2位】 道路などの清掃活動 (10.2%)
		【3位】 生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化 (10.1%)	【4位】 身近な生き物観察やみどりの 調査 (6.5%)
	問 10 みどりを守るために 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】 CO ₂ の吸収減となり地球温暖化 を緩和するみどり (¥156)	【2位】 水害の軽減など自然災害によ る被害を軽減するみどり (¥142)
		【3位】 日射の緩和等により都市の気温 上昇を緩和するみどり (¥118)	【4位】 避難地や防災拠点として災害 時の生活を復旧・支援するみどり (¥115)



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	雨水の地表面排水量 (mm/日)	地表面温度 (°C)	炭素固定量 (t/ha/年)	生物指標の多様度 (%)	豊か・魅力を感じるみどりの回答数(件)	農業活動空間面積率 (%)	散策路・歩道の長さ (m/ha)	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	イベント開催に供するオーブンスペース面積 (m/ha)	非水害時における一人あたりの避難有効面積 (m/人)	水害時における一人あたりの避難有効面積 (m/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	102	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	建物が増えていますが、基地跡地や自衛隊の駐屯地、畠などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	家が増えて地表面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や自衛隊の駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	まちが発展する中でも、基地跡地や自衛隊の駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では「ナラ枯れ」という病気の被害が増えていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や自衛隊の駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルート（エコロジカルネットワーク）の一部として大切な役割を果たしています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地の周りにあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畠、並木道なども「地域のみどり」として親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畠が点在しており、身近な場所で農業に触れられる環境が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	「朝霞の森」などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などをうまく活用することが大切です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね足りています。

南部地域のみどりの方針

主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素 (CO₂) を吸収する、まさに「都市の肺」のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、地域によってみどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くなっています。本町や溝沼エリアでは、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面に浸みこみにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さん気が軽く集まれるような広場が少なく、地域の人たちのつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラ（自然が持つ機能）の要（かなめ）として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な力を守ったりします。
- b. 「朝霞の森」の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を多くの市民の皆さんと共有し、未来へ引き継いでいくための取り組みを進めます。

② みどりの恵みを地域全体に広げる

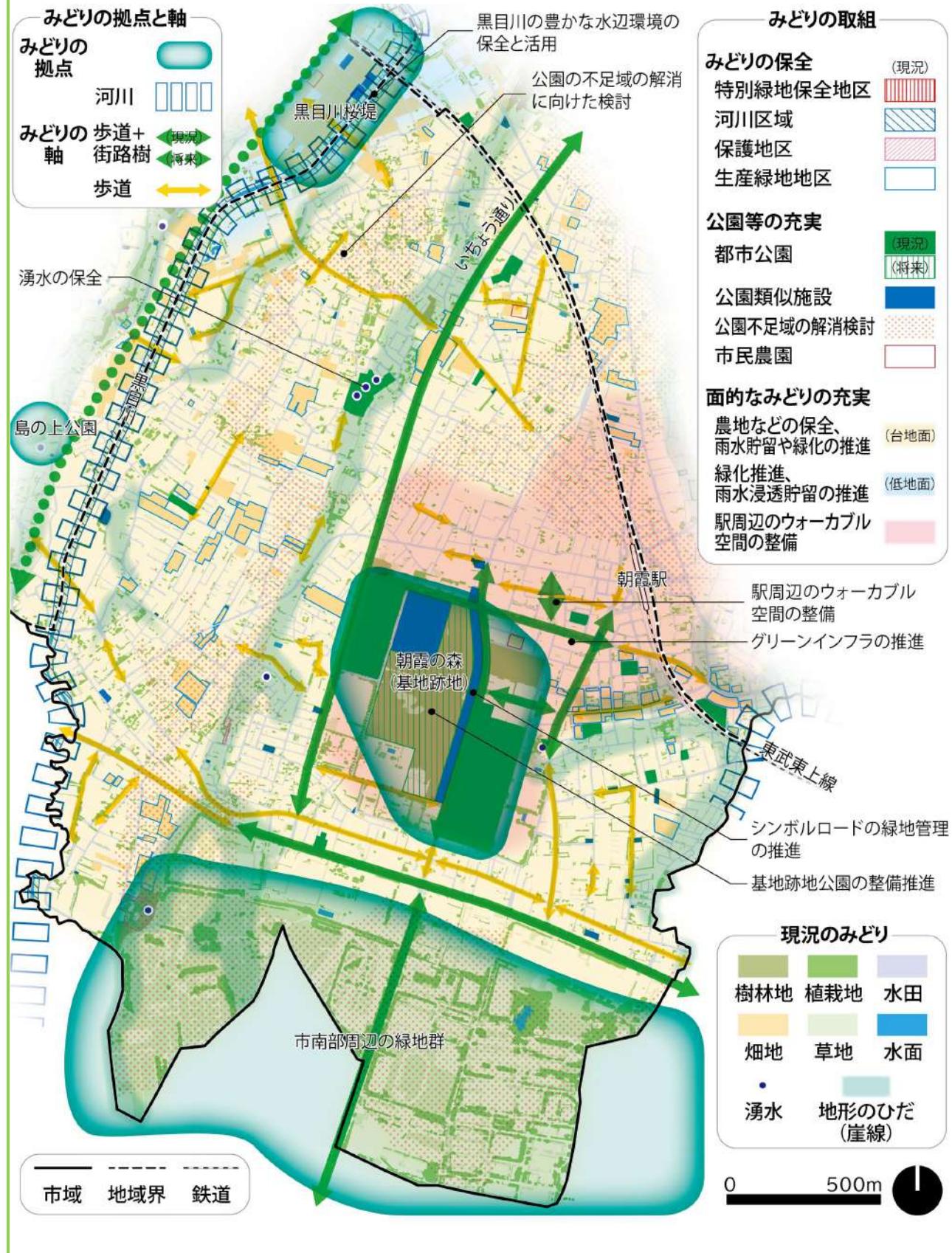
- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、居心地が良く歩きたくなる（ウォーカブルな）空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みに触れられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパーク（小さな休憩所）などを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

③グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしたまちづくりを進めます。
- b. 民間の土地でも、農地や林を守るほか、建物を建てるときの緑化や、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、「みどりのカーテン」の普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取り組みを応援します。
- c. これらの取り組みにより、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

主な取組

みどりの方針図



7 章 計画の実現に向けて

1 計画の推進体制

この計画の目標である「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するためには、市民の皆さん、会社、学校、行政など、朝霞に係るすべての人たちがチームになって取り組むことが大切です。それぞれが得意なことを生かして、協力し合いながら計画を進めていきます。

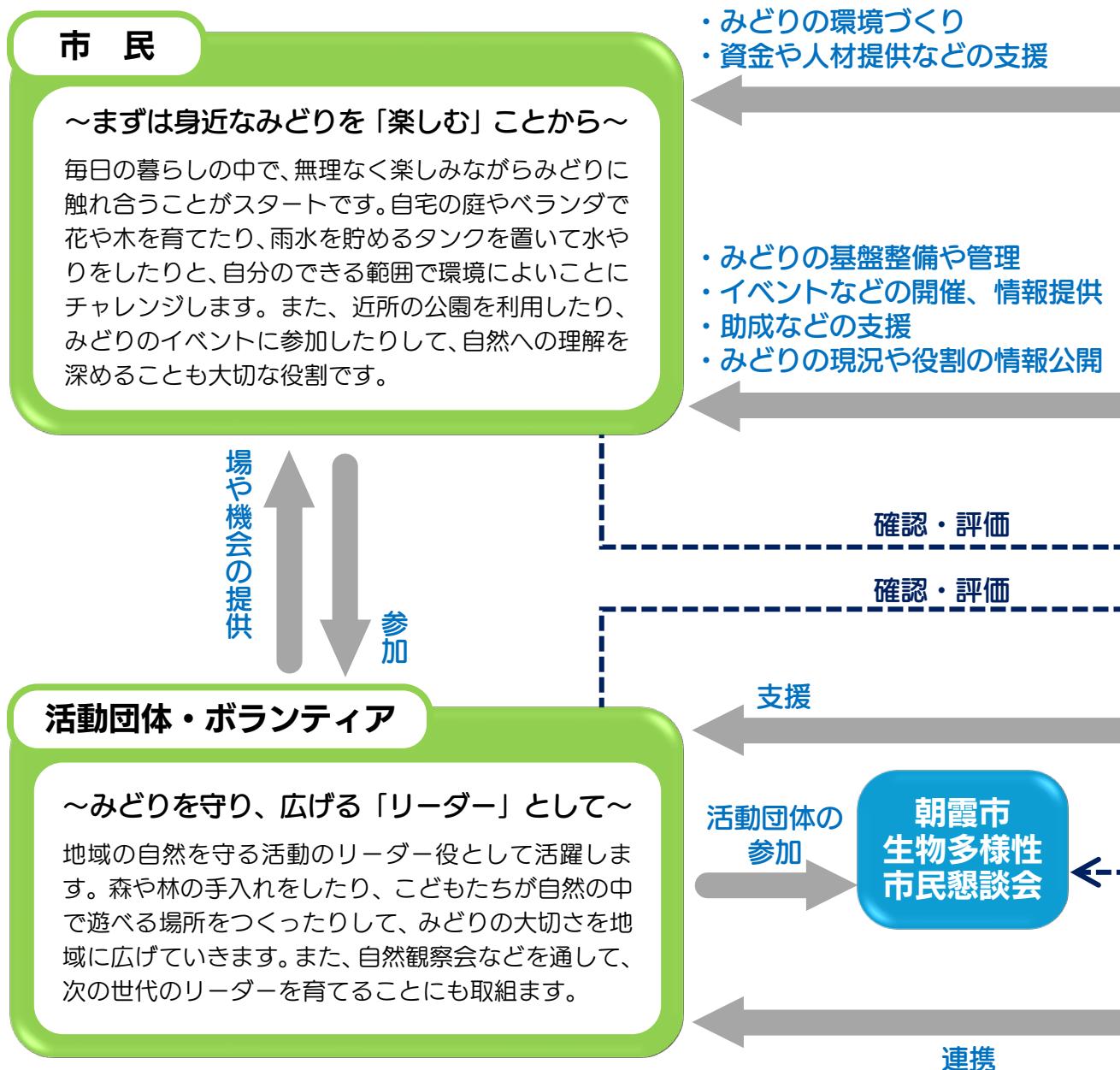


図 7-1 計画の推進体制

会社・お店（民間事業者）

～技術や力を生かしてまちに「貢献」する～

会社の敷地に木を植えたり、雨水が地面に浸み込みやすくする工夫をしたりして、まちの環境づくりに協力します。また、会社が持っている技術や資金、人の力を生かして、環境イベントを応援したり、ボランティア活動に参加したりと、地域社会の一員として貢献します。



確認・評価

支援
↑
↓
協力

市役所（行政）

府内連絡調整組織・事務局

～活動を支え、みんなを「つなぐ」～

公園や道路の街路樹など、まちの基盤の整備や管理を行います。また、市民や団体の皆さんのが活動しやすいようにサポートしたり、人と人をつなぐ調整役になったりと、チーム全体がうまく動くように土台をしっかりと支えます。また、みどりの状況を定期的に調べて、皆さんに情報を伝えています。

協力

しもん とうしん
諮詢・答申³⁴

素案提案
進捗報告

朝霞市 緑化推進 委員会

・生き物調査
・緑地維持管理活動等連携

協力
↑
↓
支援

情報共有
提案

学校・大学

～学びを生かし、未来へ「つなぐ」～

大学などは、専門的な知識を生かして、朝霞のみどりについて調べたり、より良くするためのアドバイスをしたりします。

学校では、授業や部活動などを通じて、若い世代がみどりに親しむきっかけをつくります。こどもたちが自然の大切さを学ぶことは、未来の朝霞のみどりを守ることにつながります。

34 「諮詢」は、国や自治体が専門家や市民の代表からなる会議に「どうすべきか」と意見を求めることがあります。「答申」は諮詢に対して「こうすると良い」と答えを返すことです。

2 計画の進行管理

(1) 進行管理を図るための目標設定

本計画が掲げる基本理念「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するためには、私たち行政と市民・事業者の皆さんのが共通のゴールを見据え、着実に取組を進めていく必要があります。そこで、計画の進捗を客観的に「見える化」し、効果的な進行管理を行うための「ものさし」として、2つの階層からなる目標を設定します。

① 全体目標

まち全体のみどりの状態や、市民の皆さんの実感（豊かさ・楽しさ）を測る「全体目標」を設定します。ここでは、みどりの「量」を示す緑地率や整備水準に加え、みどりの「質」や「関わり」を示す満足度や利用頻度を指標として掲げます。

表 7-1 全体目標

目標項目	目標設定の考え方	現況値 令和 7 (2025) 年度末	目標値 令和 17 (2035) 年度末
みどりの 満足度 ³⁵	面積などの「量」だけでなく、みどりがどれだけ愛され、心地よい空間となっているかという「質」を測るため、市民の皆さまの満足度を目標とします。	0.29 「そう思う (1.0) 」～「そう思わない (-1.0) 」 までの5段階評価の平均	0.30
市域に占める 緑地率 ³⁶	私たちの暮らしを支えるみどりは、年々減少傾向にあります。このかけがえのない財産を守り将来へ残していくために、市全体のみどりの量を確保する目標を定めます。	21.5%	22.4%
都市公園の 整備水準 ³⁷	憩いや防災、自然との触れ合いの拠点となる都市公園が、市民にとって十分に足りているかを測る指標です。誰もが身近にみどりを感じられる、安全で快適なまちづくりの目安として設定します。	2.13 m ² /人	3.16 m ² /人
公園の 利用頻度 ³⁸	公園は整備するだけでなく、使われてこそ価値が生まれます。この目標により、公園が市民にとって「利用しやすく、魅力的な空間になっているか」という活用の視点から評価を行います。	30.9 回/年	31.9 回/年

35 みどりの市民アンケート調査における問 1-a 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」の回答（そう思う (1.0) ～そう思わない (-1.0) までの5段階評価）の平均。

36 都市公園、学校などの公共施設の植栽地、社寺などの民有地の植栽地、特別緑地保全地区や保護地区、生産緑地などの法律や条例で守られている緑地などのすべての緑地面積が市域に占める割合。

37 市内の都市公園の総面積を市の人口で割った一人当たりの都市公園面積のこと。

38 みどりの市民アンケート調査により得られる公園の年間利用回数の平均。

② 個別目標（重点施策の目標）

重点施策の達成状況を測る「個別目標」を設定します。特別緑地保全地区の拡大や新たな公園整備といったハード事業から、ガイドラインの策定やデジタル活用といった仕組みづくりまで、具体的なプロジェクトごとの到達点を定めます。計画目標は10年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

表 7-2 個別目標（重点施策の目標）

施策の柱	重点施策	計画目標	将来目標
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地・樹木の担保性の向上	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約2.7ha (現況値+0.6ha)	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約3.6ha (現況値+1.5ha)
	(2) 里山保全活動の推進	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による良好な自然環境の保全
1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による湧水源の涵養
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	まぼりみなみ公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備
	(3) 公園の維持管理の充実	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による質の高い空間の創出
1-4 道路・河川のみどりの育成	(2) ウオーカブルな空間整備	駅西口富士見通線のウォーカブル改修	朝霞駅南口駅前通り及び周辺市道のウォーカブル改修
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(2) 担い手の連携の拡充	Park-PFI事業者による内間木公園の運営	Park-PFI事業者による基地跡地公園の運営
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による財源の確保
	(2) みどり・公園分野におけるDXの推進	公園台帳のデジタル化	DXの推進による効率的な公園管理
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(2) 情報発信の強化と充実	自ら情報発信できるオンラインプラットフォームの導入	市民が主体となったみどりの情報発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした健康増進の場づくり

2 計画の進行管理

(2) グリーンインフラの多面的効用のモニタリング

本計画の推進にあたっては、みどりを単に「保全・創出」するだけでなく、グリーンインフラが持つ「多面的な効用（みどりのチカラ）」が十分に発揮されているかを継続的に把握・検証することが不可欠です。そのため、定期的な調査や科学的なシミュレーション、市民協働によるデータ収集を組み合わせたモニタリングを実施し、客観的な根拠に基づくまちづくりを進めます。

① モニタリングの実施手法

「みどりの量」だけでなく、防災や環境調整、コミュニティ形成といった「みどりの質（機能）」を評価するため、以下の手法を用いて多角的なデータを収集します。

表 7-3 モニタリングの実施手法

定期調査の活用	おおむね5年ごとに実施する「緑被率経年変化調査」および「みどりの市民アンケート調査」により、みどりの基礎データと市民意識の変化を定点観測します。
科学的シミュレーション	雨水浸透や地表面温度など、目に見えにくい機能については、地理情報システム(GIS)等を用いたシミュレーションにより数値を算出します。
市民・ボランティアとの連携	ボランティアグループによる生き物調査など、市民参加型の調査を実施し、身近な自然の変化をきめ細かく捉えます。
「見える化」の推進	収集したデータをもとにグリーンインフラマップを作成・更新し、みどりの効果をわかりやすく可視化します。

② 分析指標の設定と活用

本市が抱える社会課題に対し、みどりがどのように貢献しているかを評価するため、下表の分析指標を設定します。これらの指標を用いて、町丁目ごとの詳細な状況を把握し、地域ごとの特性に合わせたきめ細かな施策の検討や、優先的に取り組むべきエリアの特定に活用します。

表 7-4 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (℃)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34 の生物指標を分母とした GI タイプで生息が想定される生物指標の数の割合
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の 50% の面積を評価単位空間面積で除したもの
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ
身边な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径 500m 以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積 (4ha) を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (m ² /人)	評価地点から 500m 以内における 1000 m ² 以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (m ² /人)	評価地点から 500m 以内における学校や 1000 m ² 以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積
	水害時における避難有効面積 (m ² /人)	

2 計画の進行管理

(3) 定期的な進行管理と計画の見直し

③ PDCA サイクルによる進行管理

これらのモニタリング指標によって得られた結果は、まちづくりの次なるアクションへ生かします。例えば、雨水浸透機能が低いエリアでは「雨庭」の設置を重点化する、気温が高いエリアでは木陰を増やすなど、データに基づいて施策の方向性を修正・決定することで、限られた予算と資源で最大限の効果（みどりのチカラ）を引き出す順応的な管理を行います。

また、社会情勢の変化やグリーンインフラの効果検証の結果を的確に反映させるため、「P（計画）－D（実行）－C（評価）－A（改善）」のサイクルを回し、継続的な改善を図ります。

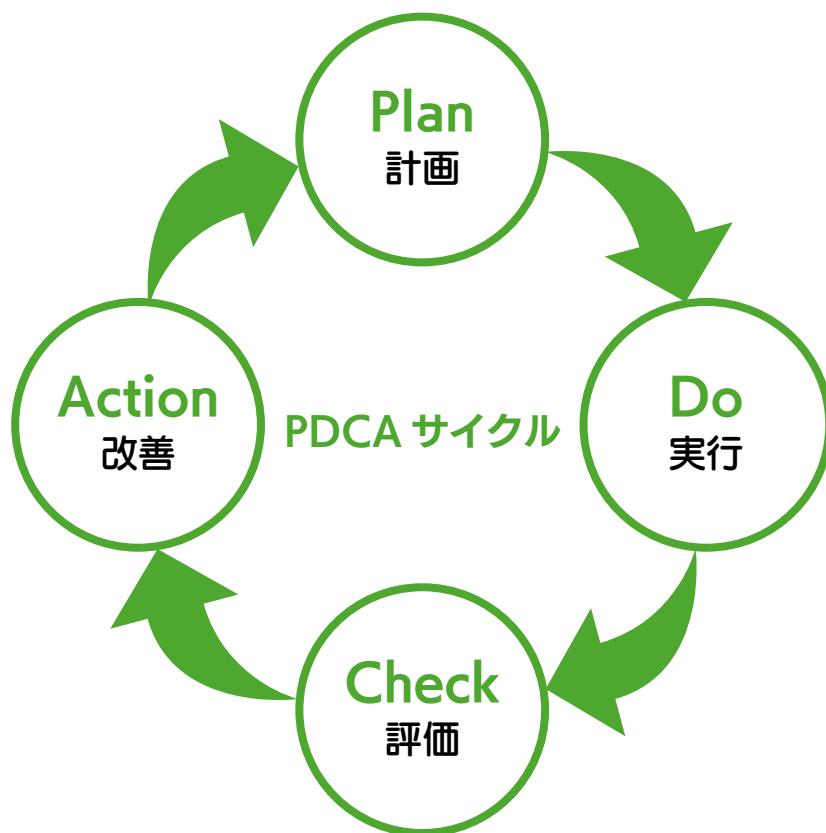


図 7-2 PDCA サイクルによる進行管理

② 計画の進行管理と見直し

本計画の推進にあたっては、年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。

また、社会情勢の変化や、気候変動の影響、技術革新のスピードに対応するため、定期的な調査結果に基づいて柔軟に計画の見直しを行う「ローリング方式³⁹」を採用します。

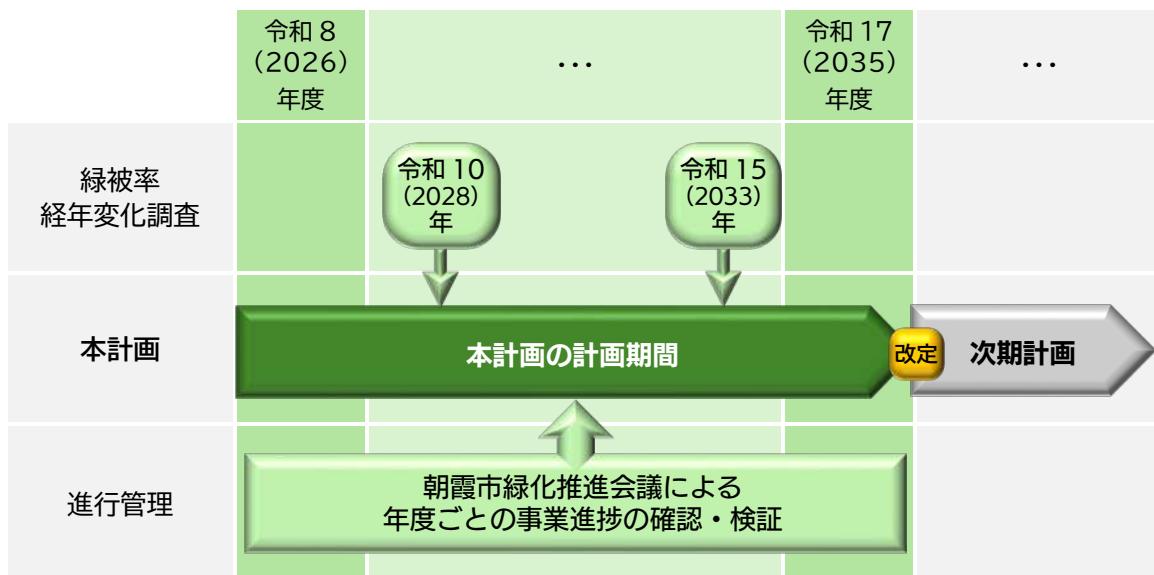


図 7-3 定期的な計画の見直し

本市のみどりの基礎データである緑被率経年変化調査は、5年ごとに実施しており、本計画期間中は、令和10（2028）年度と令和15（2033）年度に実施予定です。この調査により、みどりの「量」の変化や、施策の効果を客観的な数値として把握します。計画期間の終盤に実施する令和15（2033）年度の緑被率経年変化調査の結果は、令和18年度以降の次期マスタープラン策定に向けた基礎資料として活用します。また、緑被率経年変化調査の実施にあたっては、技術の進歩やグリーンインフラの分析目的に応じ適切なデータの取得を検討します。

³⁹ 計画の策定後、固定的に運用するのではなく、一定の期間（毎年度や数年ごとなど）ごとに計画内容の見直しを行う手法のこと。社会情勢の変化や、事業の進捗状況、財政状況などを踏まえ、計画と実態との乖離を防ぐために修正・補正を加えることで、計画の実効性を維持・向上させることを目的としています。

參考資料集

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(1) グリーンインフラの分析の目的

今、世界では、自然を回復させてより豊かな状態にしていく「ネイチャーポジティブ」という考え方方が広がっています。朝霞市でも、これまで以上にみどりを大切に守り、増やしていく取組をしっかりと進めていくことが求められています。

そこで、こうした取組を確かな根拠（理由）に基づいて進めていくために、みどりが人々の生活をどれほど豊かにし、支えてくれているのか、そのさまざまな効果について詳しい分析を行いました。

みどりには、人間や生き物の暮らしを支えるだけでなく、街の魅力を高めるなど、数多くの大切な「機能（役割）」があります。こうしたみどりが持つさまざまな機能を賢く使って、まちづくりの課題を解決しようとする取組を「グリーンインフラ」と呼びます。

今回の分析では、この「みどりの機能」という視点に立って、市内の現状を詳しく調べています。



(2) グリーンインフラの分析の構成

解析に先立ち、朝霞市のみどりや土地被覆などの情報を網羅した「朝霞市グリーンインフラマップ（GI マップ）」を作成しました。本分析では、このマップを活用し、みどりが持つ多角的な機能の視点から評価を行っています。また、一部の評価軸においては、「みどりの市民アンケート調査」から得られた環境に対する市民の主観的な評価を取り入れています。さらに、同調査における「みどりの効用（機能）別のサービスへの支払い意思」の結果に基づき、各機能の重要度を重み付けしました。これにより、市民の意向をより直接的に反映した総合評価を算出しています。

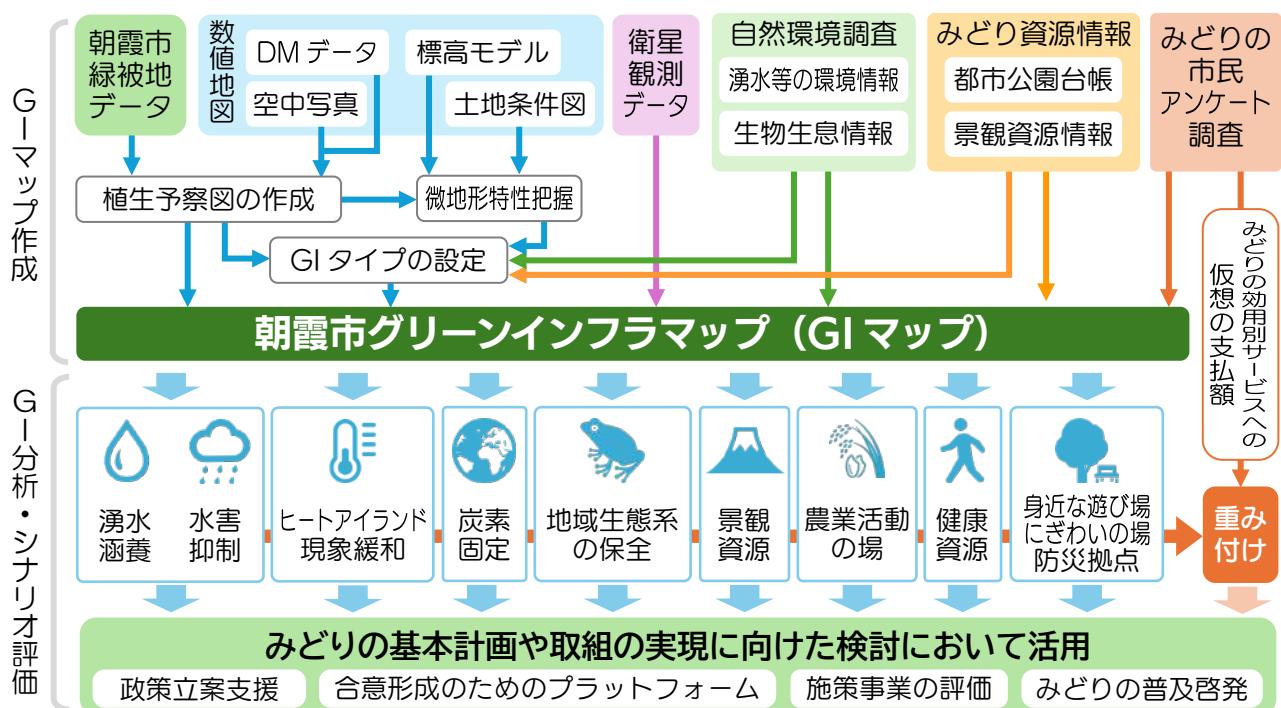


図 参-2 グリーンインフラの解析の構成

(3) 朝霞市グリーンインフラマップ

グリーンインフラ解析を進めるにあたり、その基盤となる「朝霞市グリーンインフラマップ」を作成しました。作成の手順としては、まず令和5年度に実施した緑被地調査の結果をもとに、「植生予察図（みどりの予測図）」を整備しました。この緑被地調査では、衛星データなどを用いたリモートセンシング技術により緑地を抽出していますが、技術の仕組み上、誤判読が避けられない側面があります。そのため、空中写真や DM（デジタルマップ）を用いた目視による修正を念入りに加えることで、抽出精度の向上を図りました。次に、この植生予察図に微地形の分布や自然環境の情報を重ね合わせ、本市独自の「グリーンインフラタイプ（凡例）」を設定しました。この区分に基づいて図面の精緻化を行うとともに、雨水の浸透能力や、植生ごとのバイオマス係数（CO₂ 吸収量などの指標）といった各種の環境性能に関する数値をデータとして反映させ、マップを完成させています。

本マップの大きな特色は、一般的な「みどりの現況図」とは異なり、樹林地、草地、農地、水辺地といった自然地だけでなく、住宅地などの市街地（基質）も網羅して地図化している点にあります。グリーンインフラの解析には、みどり（図）の情報だけでなく、その背景となる市街地側の環境情報（地）が欠かせないためです。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

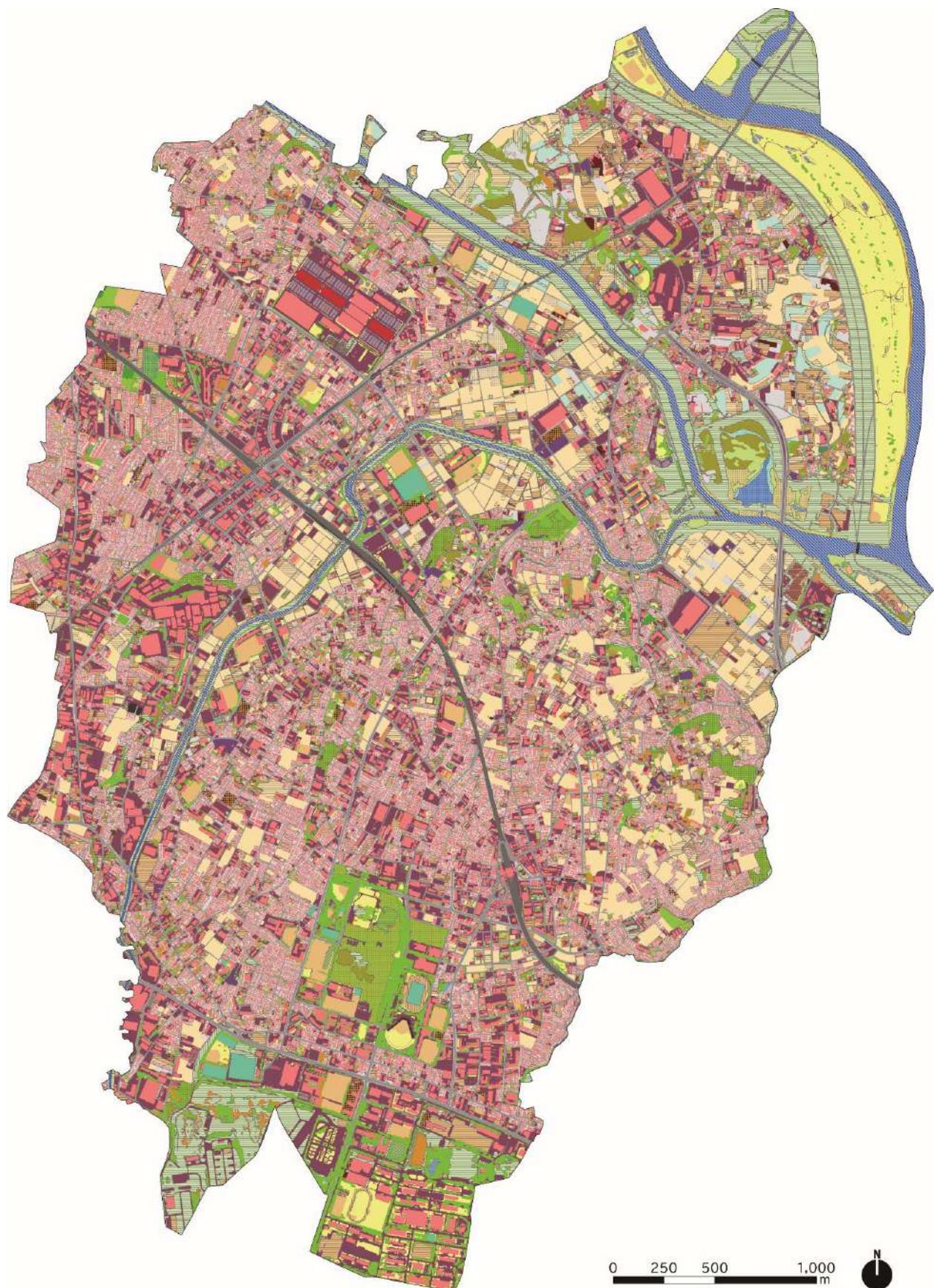


図 参-3 朝霞市グリーンインフラマップ

凡 例

101, 湿田	511, アスファルト舗装
102, 休耕湿田	512, 透水性舗装
103, 湿性立地の管理放棄型の草原	513, 土系砂系舗装
104, 中性立地の冠水型草原	514, 碎石舗装
105, 蓼池	515, 樹脂舗装
201, 蔬菜畑	516, 造成地
202, 果樹園・樹木畑	517, 資材置き場
203, 休耕地	518, 墓地
204, 耕作放棄地	521, 建築物
304, 河辺の落葉樹自然林	522, 特殊緑化(草地)
309, 低山地の常緑樹二次林	523, 特殊緑化(樹木)
310, 段丘崖の常落広葉樹混交林	524, 人工芝
311, 中～乾性立地の落葉樹二次林	526, 防草シート
312, 中～乾性立地の伐採跡地二次林	527, 敷き鉄板
314, 中～乾性立地の針葉樹植林	528, コンクリート構造物
318, その他の落葉樹植林	529, コンクリート擁壁
319, タケ類植林	531, 間地
321, 中～乾性立地の管理放棄型の草原	542, 緑化ブロック
322, 中～乾性立地の粗放管理型の草原	543, 太陽光パネル
323, 湿性立地の冠水型草原	544, 配管施設
324, 中性立地の冠水型草原	550, 植栽地起源の管理放棄型樹林
401, ため池	601, 車道(舗装)
402, 生態復元池	602, 車道(未舗装)
403, 自然的護岸の池	603, 車道(透水性舗装)
406, 遊水池・調整池	604, 車道(高架)
407, プール他	606, 歩道(舗装)
412, 人工護岸の中小河川	607, 歩道(未舗装)
413, 自然的護岸の中小河川	608, 歩道(透水性舗装)
421, 農地の小水路	611, 鉄道の軌道敷き
422, 市街地の小水路	612, 鉄道の高架
424, 公園等のせせらぎ(護岸不透水)	
425, 公園等のせせらぎ(自然護岸)	
441, 碓原	
442, コンクリート護岸	
443, 空隙のある護岸	
501, 高木植栽地	
502, 灌木植栽地	
503, 芝生植栽	
504, 花壇等	
505, 裸地	
506, 強管理草地	
507, 路傍雑草地	

凡例中の番号は凡例の ID 番号です。
この凡例は、「大澤啓志・他 (2004) 鎌倉市を事例とした市域スケールでのビオトープ地図の作成、日本造園学会ランドスケープ研究 67 巻 5 号 p. 581-586」等の既往研究を参考に、朝霞市のみどりの実態を踏まえて設定しています。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(4) 効用別分析

① 健全な水循環を支えるみどり

a. 解析の目的

この水循環のシミュレーションでは、市内の地下水の動きを再現することで、地面が雨水を吸い込む力や湧水の源となって水を蓄えているエリアを明らかにします。

地面が雨水を吸い込む力が大きいと、大雨が降っても水が一度に川や排水路へ流れ出すのを防ぐことができます。つまり、この「地面が水を吸い込む力」を詳しく調べることは、まちを水害から守るために大切な分析になります。

b. 朝霞市水循環のモデル化の考え方

朝霞市に降った雨が、どの程度地下に浸み込み、どこへ流れていくのかを調べるために、コンピュータの中に「もう1つの朝霞市」を再現します。

モデル化の方針

- 段丘面に広がるローム層は比較的透水性が高く、地表から地下に浸透した水は、その下位にある砂礫層中の帯水層に流入します。
- 段丘砂礫層中の地下水は、基底面の傾斜に沿って流れ、台地の末端や段丘崖に湧き出しています。つまり、これらの湧水の起源は、段丘面上で涵養された降雨であるとみなすことができます。
- 一方、関東平野南西部の深層地下水は、長年の揚水により水位が著しく低下しています。そのため、砂礫層中の地下水の一部は、さらに下位の地層に向かって浸透しています。
- したがって、地表から涵養された地下水は、「台地の縁辺に湧出するもの」と「地下深部へ浸透していくもの」に振り分けられます。この配分を適切に評価することが、今回の解析における重要な着目点となります。
- 年間平均降雨（概ね2.5mm/日）の条件において計算しています。

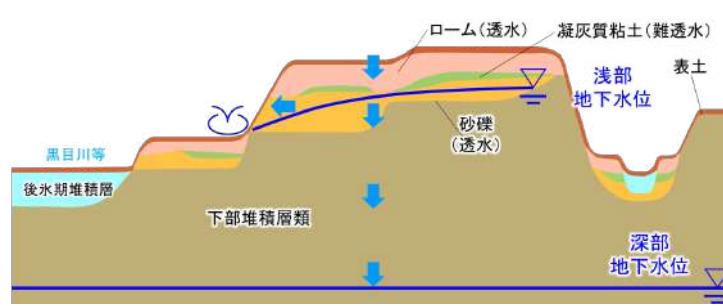
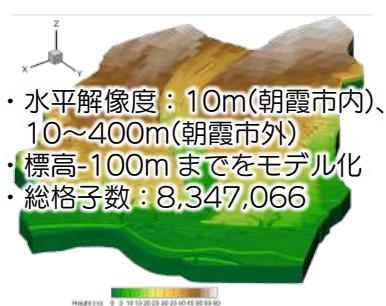


図 参-5 モデル化の方針

※このモデルは「GETFLOWS」という水の循環を再現するソフトを使用して解析しています。

c. 分析の領域及び条件の設定

分析の範囲と条件は、以下のように設定しました。

朝霞市の北西側および南西側の境界は、柳瀬川および白子川による閉境界としました。台地部においては、ボーリングデータから推定した地下水位の高まりを閉境界としています。これにより、上流側の地下水が解析領域に流入しない設定となります。黒目川の上流（谷地）の境界は、朝霞市から十分に離れた位置に設定し、既存のボーリングデータから推定した固定水位境界を設けました。荒川沿いの低地については、荒川の上流側および下流側に境界を設定し、推定地下水位に基づいた固定水位境界を設けています。なお、解析領域の底面は-100mとして設定しました。

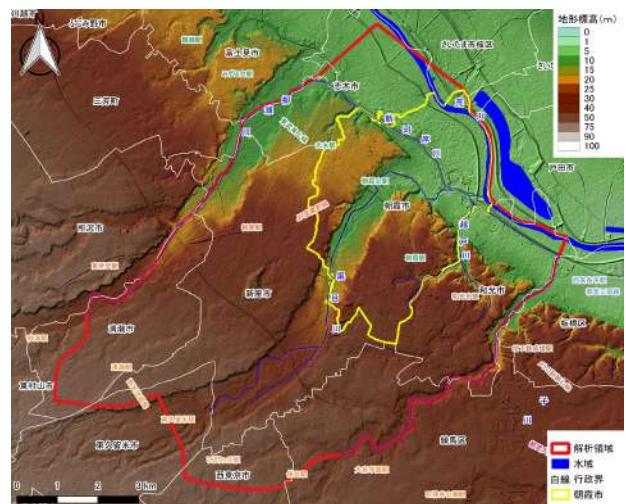


図 参-6 分析の範囲と条件

d. モデルの調整

コンピュータ上のモデルを作る際、浅部砂礫層と下部堆積層類で、それぞれ水の通りやすさの数値を細かく調整しました。これにより、台地のふちから湧き出る水と、地下深くに浸み込んでいく水のバランスを整え、実際の地下水の高さ（地下水位）や川の水の量（流量）に近づけています。また、市民団体「朝霞水の会」が1997年に行った調査データも活用し、地下水の高さの変化が正しく再現できているかどうかの確認も行いました。

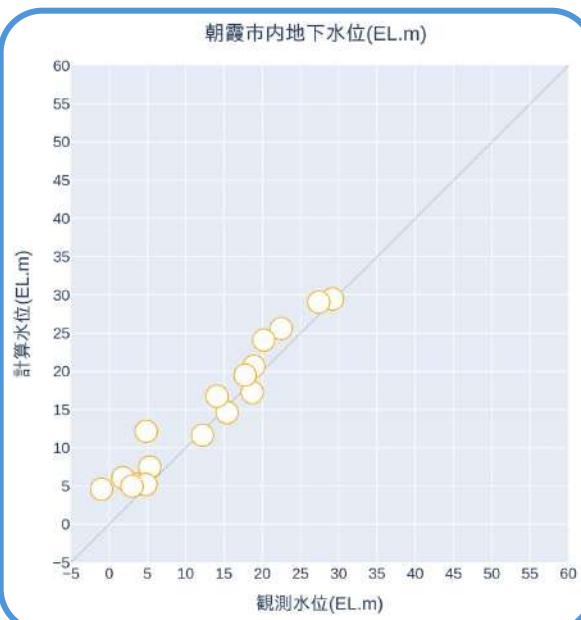


図 参-7 観測水位と計算水位の比較

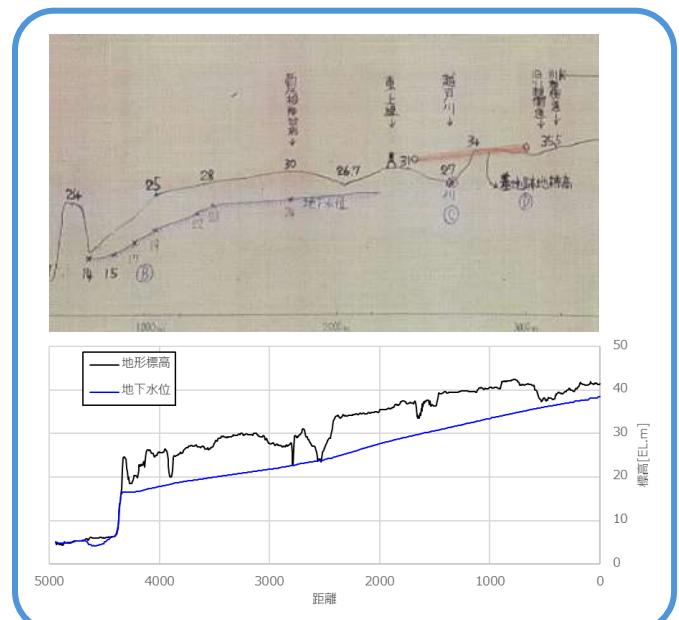


図 参-8 「朝霞水の会」による調査結果との比較

1 みどりの多面的効用に着目した分析

e. 解析の結果

ア. 雨水の浸み込み方と水害のリスク

- 台地上のみどりが分布するエリアでは、雨水が地面に浸み込む量が多く、湧水の維持や水害の防止に貢献しています。
- まちなかは、建物やアスファルトが多く、雨水が浸み込まずに表面を流れるため、水害のリスクを高めています。
- 川沿いの低い土地では、地下水位が地表近くまであり浅いため、雨水が地面に浸み込みにくいことが分かりました。

イ. 湧水が出る仕組みの再現

- 地下の水の流れを再現したところ、地面から浸み込んだ雨水は、浅い層を通って崖から湧き出すものと、さらに地下深くへと流れていくものに分かれることがわかりました。
- シミュレーションにより、実際の湧水地点の状態をコンピュータ上で再現できました。

ウ. 湧水にたどり着く水が浸み込んだ範囲

- 地下水の流れを追跡した結果、地下水はおおむね南から北（または南西から北東）へ流れますが、湧水の近くでは出口（崖）に向かって流れを変えています。
- 湧水に届く多くの水は湧水に近い台地上で浸み込んだのですが、数キロメートル離れた遠くの台地から、長い時間かけて届く水も含まれていることがわかりました。

〔地表面における雨水の浸透量、表面排水量、地下水の流れ（流動経路）、湧水への涵養起源に係る図面は、本編の18-19頁に掲載しています。〕

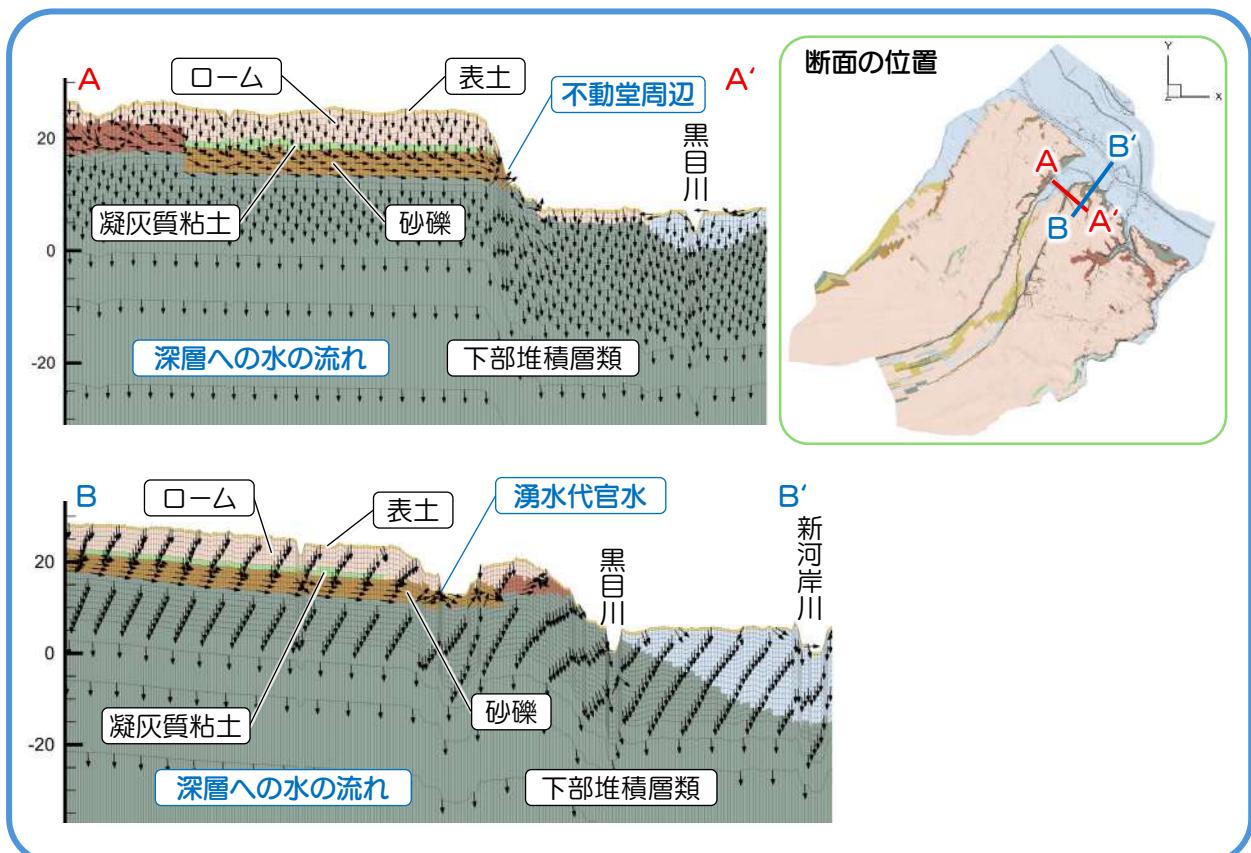


図 参-9 断面図で見る地下水の流れ

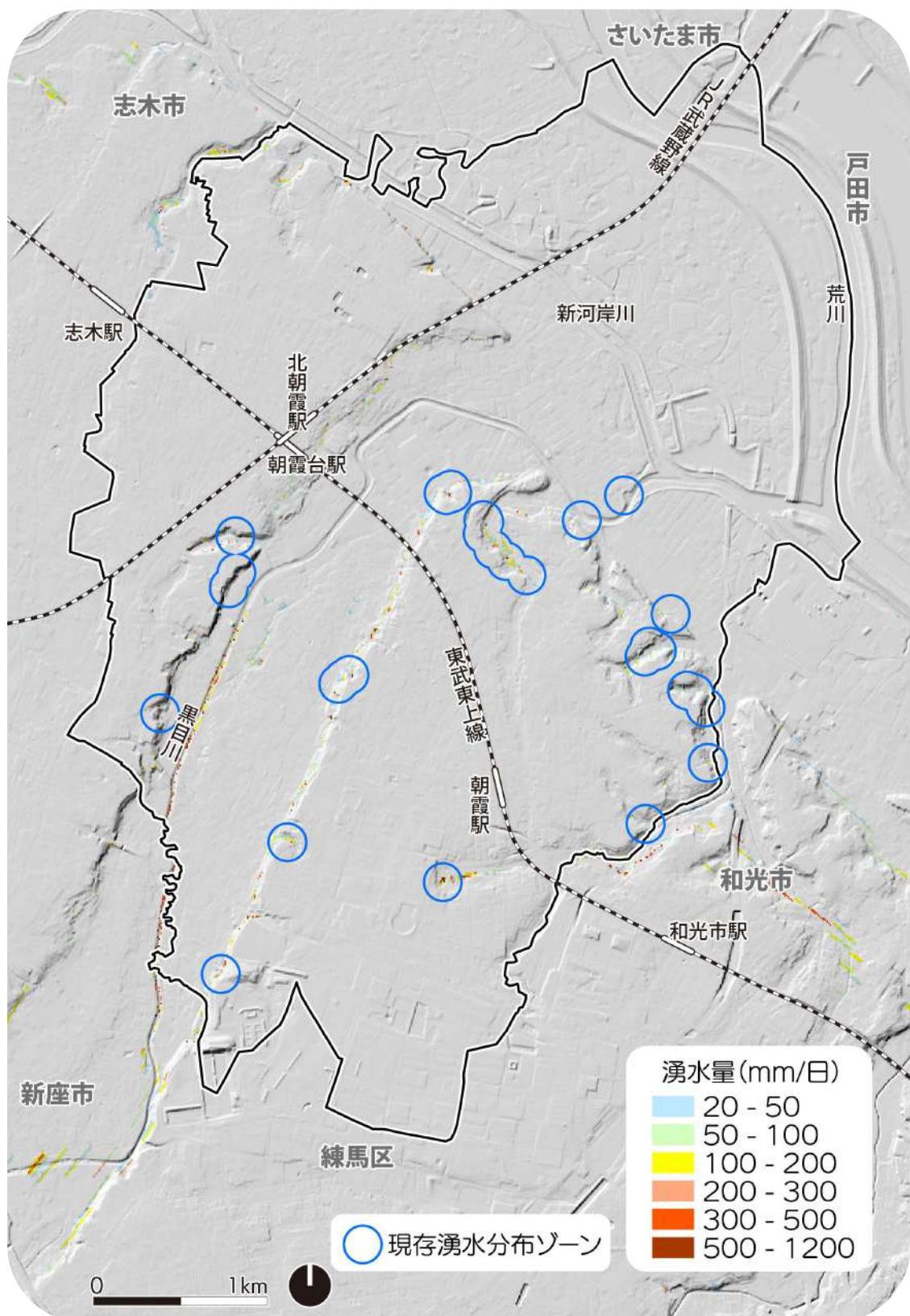


図 参-10 湧出量
 (地表面を上向きに通過する水の流動量)

1 みどりの多面的効用に着目した分析

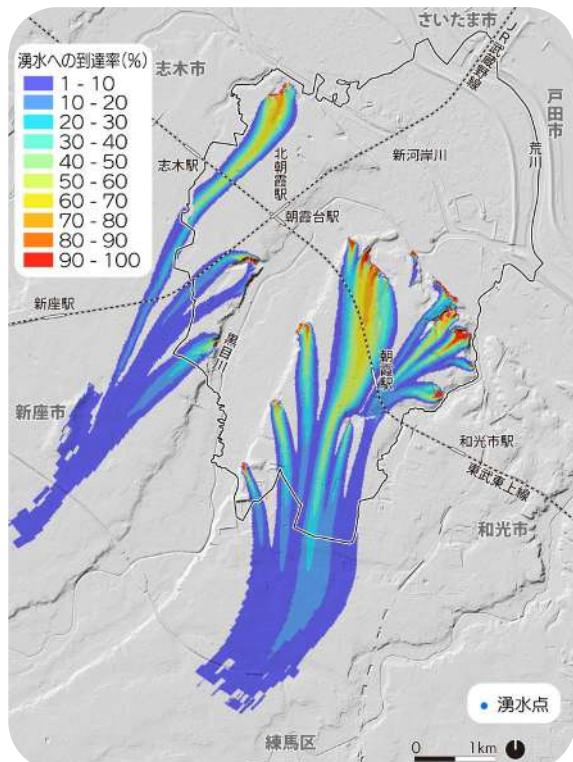


図 参-12 湿水の涵養起源（広域）

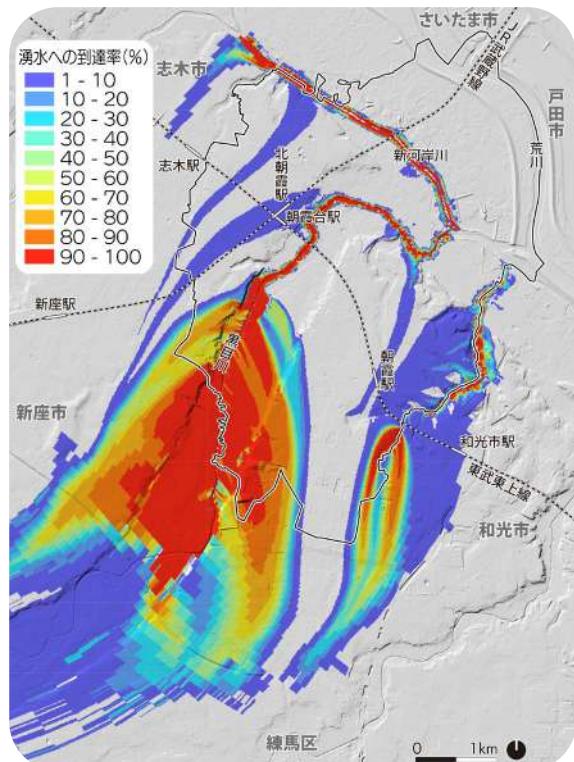


図 参-11 河川への湧水の涵養起源（広域）

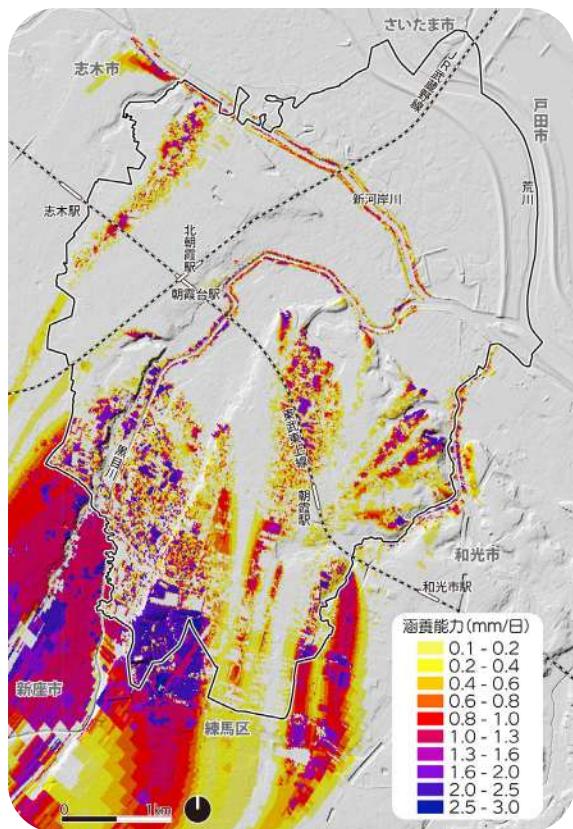


図 参-13 湿水と河川への涵養量

〔湧水の涵養量は、各地点で浸み込んだ雨水の湧水への到達量を計算したものです。各地点の「浸透量」×「湧水への到達率」によって求めています。〕



図 参-14 地下水位

〔 地表から地下水までの距 〕

② 都市の気温上昇を緩和するみどり

a. 解析のねらいと方法

都市の温度が上がるヒートアイランド現象に対して、みどりがどれくらい役立っているかを調べるため、人工衛星のデータとみどりの分布図（GI マップ）を使って分析しました。

まず、人工衛星「ランドサット 9 号」が観測した熱赤外線のデータをもとに、市内の夏の地面の温度を色で示した地表面温度図（2章 20 頁に掲載）を作成しました。この図は、2023 年と 2024 年の夏のうち、天気が良く、雲の影響をほとんど受けていない 3 時期の画像を選んで作成しています。3 つの時期の温度を平均したのは、その日だけ特別に温度が高かったり、特定の場所だけで極端な数値が出たりする「外れ値」の影響を抑えるためです。これにより、一時的・局所的な数値の偏りをならして、市全体の正確な傾向を把握できるように平準化しました。

表 参-1 使用した画像

データソース名: U.S. Geological Survey (USGS)
衛星・センサ名: Landsat 9, TIRS-2 (熱赤外センサ)
データプロダクト名: Collection 2 Level 2
入手先: USGS EarthExplorer

取得年月日
2023 年 7 月 27 日 am10:15 頃
2023 年 8 月 4 日 am10:15 頃
2024 年 7 月 5 日 am10:15 頃

b. 解析から予測した温度の広がり

地表面温度図によると、市内の最高温度は 36.5 度、最低温度は 25.7 度でした。

c. 朝霞市独自の計算式で温度の変化を予測する

朝霞市内のみどりの広がりと、人工衛星の画像から分かった地面の温度の関係を詳しく分析しました。その結果、朝霞市の実際の特徴をしっかり反映させた、市独自の計算式を導き出しました。

この式を使うと、例えば今あるみどりがなくなってしまった場合や、新しくみどりを増やした場合に、地面の温度がどのように変化するかを予測することができます。

推測地表面温度 (°C) = 31.6

$$\begin{aligned} & + (-4.28 \times \text{水系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ & + (-1.93 \times \text{樹林地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ & + (-0.40 \times \text{草地系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ & + (1.87 \times \text{都市系 GI タイプ面積 (ha)}) \\ & + (0.98 \times \text{建物面積 (ha)}) \end{aligned}$$

(補正 R2=0.773)

図 参-15 朝霞市のみどりの分布に基づいた地表面温度の推測式

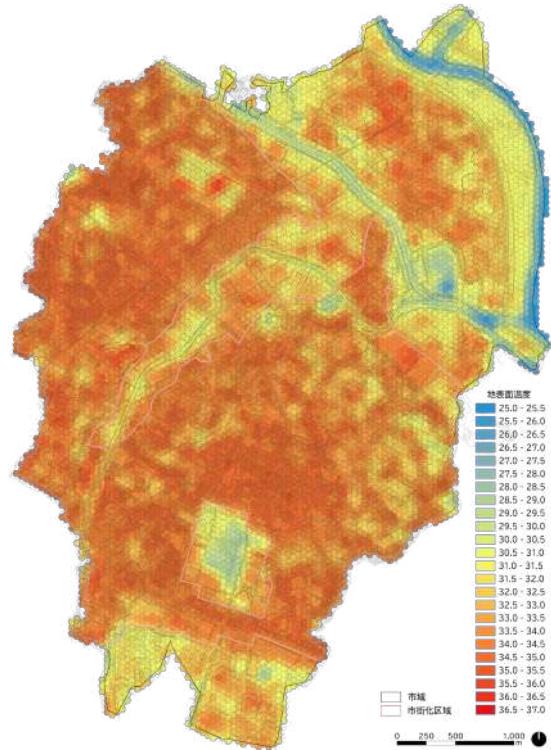


図 参-16 みどりの分布状況から推測した地表面温度分布図

1 みどりの多面的効用に着目した分析

③ 地球温暖化の緩和に貢献するみどり

a. 市内のみどりが蓄える炭素の量の調べ方

植物が光合成によって作り出した栄養（有機物）の合計を総生産量と呼びます。植物は自分で作った栄養の一部を、自分自身が呼吸するために使いながら成長しています。そのため、全体の量から呼吸で使った分を差し引いた残りが、植物の体として蓄えられます。これを純生産量と言います。

二酸化炭素がどれくらい取り込まれたか（炭素固定量）を推定する際は、これまでの研究で積み重ねられた森林や草地などのデータを使います。まず、市内にあるみどりの種類とその面積を調べ、エリアごとに純生産量を計算します。さらにそれを炭素の重さに置き換えることで、市全体でどれくらいの炭素が蓄えられているかを算出します。

表 参-2 GI タイプ区分の純生産量・炭素固定量

GI タイプ区分	純生産量 (t/ha・年)	炭素固定量 (t/ha・年)
常緑広葉樹林	18	8.0
落葉広葉樹林	12	5.3
常落混交広葉樹林※2	15	6.7
常緑針葉樹林	18	8.0
草地（竹林含む）	12	5.3
農耕地（果樹園等含む）	10	4.4
その他緑地（公園等を含む）	6	2.7

この表は、「大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版（2015），独立行政法人環境再生保全機構」を参考にしています。

GI タイプ区分は、GI タイプにおいて、樹林系 GI、草原系 GI などを統合したものです。

植物体の乾物重の大部分を占める多糖類 ($C_6H_{10}O_5$ で代表される) と、この中の炭素量の重量比から炭素固定量を設定しています。多糖類と含有炭素の重量比は、 $[6C]/[C_6H_{10}O_5] = 6 * [12g/mol] / [162g/mol] \approx 44.4\%$ です。

常落混交広葉樹林の純生産量、炭素固定量は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の値の平均としました。グリーンインフラマップにおける高中木植栽地、灌木植栽地は、「その他緑地」として計算しました。

b. 市全体のみどりが炭素を蓄える力

朝霞市全体のみどりが二酸化炭素を取り込み、蓄える力を計算しました。その結果、1 年間に市全体で約 3,018 トンの炭素を蓄える能力があることが分かりました。1 平方メートルあたりでは、最大で約 0.73 キログラムの炭素を蓄えています。

特に炭素を蓄える力が高いのは、荒川の河川敷や墓地跡地、自衛隊の駐屯地など、大きなみどりがある場所です。また、黒目川沿いや内間木、根岸台、岡、宮戸付近に点在する農地や屋敷林も、大切な役割を果たしています。今回は面積をもとにした簡易的な計算でしたが、今後は木の高さや密度なども取り入れた、より精度の高い調査方法を確立していくことが課題です。

④ 生き物の生息空間となるみどり

a. 生き物の視点で環境の豊かさを測る

みどりには、樹林や草原、水辺などさまざまな環境があります。今回の生物多様性評価では、まず、植物の種類や地面の湿り気などを考えて、63種類の環境に「湧き水」や「林のふち（林縁）」を加えた、合計65種類の環境タイプ（GIタイプ）を設定しました。次に、過去の調査で確認された生き物たちが、それぞれの暮らしの中でどのGIタイプを利用しているかを整理しました。これを「想定生息環境の設定」と呼びます。これとあわせて、確認された生き物たちを、絶滅の心配があるレッドリスト種や注目すべき種、あるいは似たような暮らし方をする仲間のグループなど、34の指標に分類しました。最後に、これら2つの作業を組み合わせて、GIタイプごとにいくつの指標が集まっているか（指標の多様度）を計算しました。その結果を、市内のエリア（評価メッシュ）ごとのみどりの面積に当てはめることで、地図上の場所ごとの多様度を求めていきます。

指標の多様度が高いということは、いろいろな暮らし方をする生き物たちが一緒に過ごせる懐（ふところ）の深い場所であることを意味しており、生き物にとって特に大切な場所だといえます。

表 参-3 生き物のグループ分け（指標）の構成

ID	指標名	指標設定の理由
01	動物-貴-鳥類	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護対策の必要性。
02	動物-貴-昆虫類	同上
03	動物-貴-その他	同上
04	動物-哺-モグラ類	土壤の通気・肥沃化に寄与。地下生態系と土壤環境の指標。
05	動物-哺-外来種	在来種の生息空間を圧迫する要因としての評価。
06	動物-哺-モグラ類以外	外来種圧下でも生息する重要環境の指標。
07	動物-鳥-渡鳥（夏）	夏鳥の繁殖地としての環境価値の評価。
08	動物-鳥-渡鳥（冬）	冬鳥の越冬地としての環境価値の評価。
09	動物-鳥-留鳥	通年生息し、鳥類群集の骨格・典型性を示す指標。
10	動物-鳥-キツツキ	巣穴供給や樹木健全化を担う、森林生態系の特殊な構成種。
11	動物-鳥-昆虫食	二次消費者（シジュウカラ等）の利用環境の指標。
12	動物-鳥-種子食	一次消費者（カワラヒワ等）の利用環境の指標。
13	動物-鳥-水鳥	水辺環境に特異的に依存する種の抽出。
14	動物-爬-在来種	確認例の少なさから、生息環境の重要性を評価。
15	動物-両-在来種（卵・幼）	水域（幼生）と陸域（成体）で異なる生存環境を分離評価。
16	動物-両-在来種（成体）	同上
17	動物-昆-チョウ（樹林性）	環境（樹林・林縁・草地）ごとの典型的な分布状況の評価。
18	動物-昆-チョウ（林縁性）	同上
19	動物-昆-チョウ（草原性）	同上
20	動物-昆-その他（樹林性）	各環境（樹林・林縁・草地）に典型的な種の分布状況の評価。
21	動物-昆-その他（林縁性）	同上
22	動物-昆-その他（草原性）	同上
23	動物-昆-トンボ（流水性）	止水・流水で異なる環境要求性を分離評価。
24	動物-昆-トンボ（止水性）	同上
25	動物-水-魚（流水性）	河川等の流水環境を利用する魚類の指標。
26	動物-水-魚（止水性）	水田・池等を利用する、伝統的な流域生態系の象徴。
27	動物-水-魚（回遊性）	生活環で川を利用する回遊魚。流域の連続性の象徴。
28	動物-水-魚（草食性）	藻類を食すアユ等。近代化以前の河川環境の象徴。
29	動物-水-魚（肉食性）	肉食・底生食。餌となる貝・エビ類が豊富な河床環境の指標。
30	動物-水-エビカニ類	十脚類が生息する河床環境の健全性の象徴。
31	動物-水-貝類	貝類が生息する河床環境の健全性の象徴。
32	動物-水-昆虫	水生昆虫の分布環境を示す指標。
33	植物-レッドリスト	国・県レッドリスト掲載の希少種。早急な保護の必要性。
34	植物-注目種	採取や管理放棄により減少が懸念されるラン科等の指標。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

b. みどりの種類 (GI タイプ) による指標の多様さの計算

それぞれの GI タイプに、全 34 の指標のうちいくつの指標が集まっているかを計算し、GI タイプにおける指標の多様度を整理しました。

表 参-4 GI タイプにおける指標の多様度

GI ID	GI タイプ	指標	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34			
			動物	動物	動物	動物	動物	動物	動物	動物	動物	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	鳥	昆蟲																			
101	湿田		10	2	7	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	1	4	0	0	11	1	6	1	4	0	4	5	2	1	1	3	0			
102	休耕湿田		10	5	7	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	2	4	1	5	21	1	6	1	4	0	4	5	2	0	1	8	0			
103	温性立地の管理放棄型の草原		12	6	3	0	0	0	4	9	13	0	20	14	10	5	2	2	1	7	12	1	7	24	1	5	0	0	0	0	1	0	0	8	0				
104	中性立地の冠水型草原		12	6	3	0	0	0	5	9	13	0	21	14	10	6	2	2	1	7	12	1	7	24	1	5	0	0	0	0	0	1	0	0	8	0			
105	蓮池		9	0	0	0	0	0	3	13	11	0	22	16	19	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
201	蔬菜畑		5	4	1	1	0	1	3	5	9	0	13	9	1	2	0	0	1	7	14	2	6	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
202	果樹園・樹木畑		5	2	2	1	0	2	3	5	12	0	16	12	1	4	0	0	2	7	11	9	7	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
203	休耕地		8	6	2	1	0	2	4	5	16	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
204	耕作放棄地		9	6	2	1	0	2	4	4	17	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
304	河辺の落葉樹自然林		6	3	1	0	0	2	3	2	14	1	15	12	1	2	0	0	3	8	4	12	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
309	低山地の常緑樹二次林		13	2	2	1	0	2	6	3	23	3	27	19	1	3	0	0	4	8	3	17	11	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
310	段丘帯の常緑広葉樹混生林		18	3	2	1	0	2	7	5	31	3	36	28	1	3	2	0	2	5	11	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3		
311	中-乾性立地の落葉樹二次林		17	3	2	1	0	2	7	5	28	3	34	26	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3		
312	中-乾性立地の伐採跡地二次林		16	3	2	1	0	2	7	6	25	1	31	24	1	4	0	0	5	13	6	23	13	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3		
314	中-乾性立地の針葉樹植林		12	0	2	0	0	2	5	3	26	2	28	21	1	3	0	0	1	3	2	7	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		
318	その他の落葉樹植林		16	3	2	1	0	2	7	5	26	1	30	24	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3		
319	タケ類植林		14	0	2	0	0	2	5	5	20	0	25	19	2	3	0	0	1	4	2	5	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
321	中-乾性立地の管理放棄型の草原		11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
322	中-乾性立地の粗放管理型の草原		11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
323	温性立地の冠水型草原		18	7	4	0	0	3	5	16	21	0	32	23	20	6	2	0	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
324	中性立地の冠水型草原		18	7	4	0	0	3	5	16	20	0	32	23	19	5	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
401	ため池		9	1	11	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	0	4	11	6	5	0	9	11	1	6	1	5	2	0		
402	生態復元池		9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0				
403	自然的護岸の池		9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0				
404	遊水池・調節池		9	1	12	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	3	2	2	0	0	0	0	0	4	11	12	9	1	17	20	6	1	5	1	0				
407	ブーム		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
412	人工護岸の中小河川		10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0				
413	自然的護岸の中小河川		10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0				
421	農地の小水路		4	0	9	0	0	1	2	3	9	0	11	8	9	3	2	0	0	0	0	0	0	0	2	10	9	1	15	18	2	1	3	0	0				
422	市街地の小水路		3	0	2	0	0	0	1	2	8	0	9	8	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
424	公園等のせせらぎ(護岸不透水)		3	0	1	0	0	0	1	2	7	0	8	7	6	4	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
425	公園等のせせらぎ(自然護岸)		3	0	2	0	0	0	1	2	7	0	8	7	6	4	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
441	礫原		4	0	0	0	0	0	0	3	9	0	10	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	
442	コンクリート護岸		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
443	空隙のある護岸		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
501	高中木植栽地		7	1	2	1	0	0	1	5	20	1	24	24	0	4	0	0	5	11	5	21	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
502	灌木植栽地		5	1	2	1	0	0	1	5	16	0	20	21	0	4	0	0	3	9	4	11	8	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
503	芝生植栽		5	5	2	1	0	0	3	6	13	0	18	15	1	4	0	0	1	7	19	2	4	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
504	花壇		4	5	2	1	0	0	3	5	13	0	18	14	1	4	0	0	1	7	20	2	8	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
505	裸地		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
506	強管理草地		5	5	2	1	0	0	3	5	14	0	18	15	1	4	0	0	1	7	19	2	7	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
507	路傍雑草地		5	5	2	1	0	0	3	4	11	0	14	12	1	4	0	0	1	8	20	2	10	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
511	アスファルト舗装		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
512	透水性舗装		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
513	土系砂系舗装		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
514	碎石舗装		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
515	樹脂舗装		0</td																																				